

0001

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：基礎

日常生活への影響という観点を含めた認知症の捉え方として、適切なものはどれか。

- ア．いったん発達した認知機能が持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態の総称である。
- イ．高齢者にみられる一時的な物忘れをすべて認知症という。
- ウ．認知症はアルツハイマー病だけを指す病名である。
- エ．意識障害が急に出現した状態をすべて認知症という。

答え・解説

正答：ア

ア：認知症は単なる加齢ではなく、複数の原因疾患によって認知機能が低下し生活に支障を生じる状態を指す。

イ：加齢による物忘れだけでは認知症とはいえない。

ウ：アルツハイマー病は代表的原因だが、認知症には他の原因疾患もある。

エ：急性の意識・注意障害はせん妄などの評価が必要で、認知症の定義とは異なる。

総合解説：認知症では、認知機能低下そのものだけでなく、それが本人の生活機能にどのような影響を及ぼしているかを見ることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0002

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：基礎

加齢による物忘れと認知症による記憶障害の違いとして、最も適切なものはどれか。

- ア．人の名前がすぐ出ないだけで認知症と診断できる。
- イ．加齢では体験の一部を忘れても生活への影響が小さいことが多いが、認知症では体験そのものを忘れるなど生活に支障を生じ得る。
- ウ．認知症では昔の記憶だけが低下し、新しい記憶は保たれる。
- エ．加齢による物忘れでは必ず日常生活が自立できなくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：単一の症状だけで認知症と断定できない。

イ：加齢による物忘れと認知症は、生活への影響や忘れ方を含めて総合的に評価する。

ウ：アルツハイマー型認知症では新しい出来事の記憶が低下することが多い。

エ：加齢による物忘れは日常生活への影響が小さい場合が多い。

総合解説：介護職は「年齢のせい」と決めつけず、変化の経過と生活への支障を具体的に観察し、必要時は医療職へつなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0003

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：標準

認知症でみられる認知機能の障害として、最も適切なものはどれか。

- ア．認知症では記憶障害以外の認知機能は必ず保たれる。
- イ．認知症で低下するのは筋力だけである。
- ウ．記憶だけでなく、注意、実行機能、言語、視空間認知など複数の認知領域が障害されることがある。
- エ．認知症では視覚や聴覚の感覚器だけが障害される。

答え・解説

正答：ウ

ア：記憶以外にも多様な認知機能が影響を受け得る。

イ：筋力低下だけでは認知症を説明できない。

ウ：認知症では記憶障害以外の認知機能障害もみられる。

エ：感覚器疾患と認知症の認知機能障害は区別して考える。

総合解説：本人が何につまずいているかを、記憶・注意・言語・段取り・空間認知など具体的に分けて把握すると支援につながりやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0004

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：標準

施設入所中のAさんが、夕方になると「今は朝ですか。ここは自宅ですか」と繰り返し尋ねる。最も関連する認知機能障害はどれか。

- ア．失行
- イ．失認
- ウ．遂行機能障害
- エ．見当識障害

答え・解説

正答：エ

ア：失行は運動機能が保たれていても目的のある動作がうまく行えない状態である。

イ：失認は感覚入力があるのに対象を認識しにくい状態である。

ウ：遂行機能障害は計画・段取り・実行の困難を中心とする。

エ：時間や場所、人物などの状況を把握する力の低下は見当識障害として捉える。

総合解説：見当識の低下がある人には、時計・カレンダー・馴染みの表示を活用しつつ、繰り返し責めるように訂正しない配慮が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0005

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：標準

Bさんは、材料や道具はそろっているが、味噌汁を作る手順を組み立てられず途中で止まってしまう。最も考えられる障害はどれか。

- ア．遂行機能障害
- イ．見当識障害
- ウ．幻視
- エ．聴覚障害

答え・解説

正答：ア

ア：目標を立て、手順を組み、順序よく実行することの困難は遂行機能障害に合致する。

イ：見当識障害は時間・場所・人物等の把握の障害である。

ウ：幻視は実在しないものが見える症状である。

エ：聴覚障害は音の知覚に関する障害で、調理手順の組み立て困難を直接説明しない。

総合解説：手順を一度に全部求めるのではなく、工程を小分けにして目印や声かけを用いると、保たれている能力を生かしやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0006

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：標準

認知症に伴う言語機能の低下として、最も適切な説明はどれか。

- ア．声が小さいことだけを失語という。
- イ．物の名前が出にくい、言葉の理解が難しいなど、言語の理解・表出に障害が生じることがある。
- ウ．口腔内の乾燥だけで言葉の意味が理解できなくなる。
- エ．すべての認知症で初期から完全に発語できなくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：声量低下は失語とは別の問題である。

イ：認知症では言語の理解や表出にも影響が出る場合がある。

ウ：口腔乾燥は発声に影響し得るが、言語理解の障害とは区別する。

エ：言語障害の出方や時期は原因疾患や個人によって異なる。

総合解説：言葉が出ないときに急かさず、具体物や写真、身振りなど複数の手段を使うことが支援となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0007

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：基礎

目的のある動作がうまくできない「失行」に該当する説明はどれか。

- ア．目が見えなくなる状態である。
- イ．音が聞こえなくなる状態である。
- ウ．麻痺などで説明できないのに、学習していた目的のある動作をうまく行えない状態である。
- エ．筋力が必ず完全に失われる状態である。

答え・解説

正答：ウ

ア：視覚障害そのものを失行とはいわない。

イ：聴覚障害そのものを失行とはいわない。

ウ：失行は、運動麻痺とは別に、目的に沿った動作の実行が困難になる認知機能障害である。

エ：失行は筋力低下のみで説明されるものではない。

総合解説：着衣や道具使用で「できない」場面があっても、動作を分解し、見本を示すなどの支援で行いやすくなることがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0008

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：標準

「失認」に最も近い状態はどれか。

- ア．手の筋力低下でコップを持てない。
- イ．難聴で小さな声が聞こえない。
- ウ．関節痛のため更衣動作が遅い。
- エ．視力は保たれているのに、見慣れた物を見ても何であるか認識できない。

答え・解説

正答：エ

ア：筋力低下は運動機能の問題である。

イ：難聴は聴覚機能の問題である。

ウ：関節痛は身体機能の問題であり、認識障害とは異なる。

エ：失認は感覚機能だけでは説明できない対象認知の障害である。

総合解説：失認が疑われるときは、物の配置を一定にしたり、言葉だけでなく触覚など別の手がかりを用いる工夫が考えられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0009

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：応用

軽度認知障害（MCI）について、最も適切なものはどれか。

ア．認知機能の低下がみられても、日常生活の自立が概ね保たれている段階が含まれ、経過観察や評価が重要である。

イ．MCIは認知症と完全に同じ状態である。

ウ．MCIがあれば必ず短期間で認知症になる。

エ．MCIでは認知機能低下を本人や周囲が感じることはない。

答え・解説

正答：ア

ア：MCIは認知症と同一ではなく、生活機能の保たれ方も含めて評価される。

イ：MCIと認知症は区別される。

ウ：経過は一樣ではなく、必ず認知症へ進行すると断定できない。

エ：本人や周囲が変化に気づく場合がある。

総合解説：「まだ認知症ではないから支援不要」と考えず、本人の困りごとや生活上の変化を丁寧に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0010

認知症の基礎 > 認知症の定義・中核症状 | 難易度：応用

Cさんは買い物に行くと必要な品を忘れ、複数の支払い手順で混乱し、帰り道を間違えることが増えた。介護職の捉え方として最も適切なものはどれか。

ア．すべて性格の問題として扱う。

イ．記憶、遂行機能、見当識など複数の認知機能と生活への影響を分けて観察する。

ウ．帰り道の間違いだけを筋力低下として扱う。

エ．一つの失敗だけで原因疾患を確定する。

答え・解説

正答：イ

ア：認知機能の低下を性格と決めつけない。

イ：生活上の困難は一つの症状だけでなく、複数の認知機能の組合せで生じることがある。

ウ：道迷いは見当識や視空間認知なども含めて考える。

エ：原因疾患の確定には医療的評価が必要である。

総合解説：介護では診断名だけでなく、本人がどの場面で何に困るかを具体化し、保たれている能力と環境を合わせて支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0011

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：基礎

アルツハイマー型認知症で初期から目立ちやすい症状として、最も適切なものはどれか。

- ア．反復する具体的な幻視だけが唯一の症状である。
- イ．突然の片麻痺だけが必ず最初に出る。
- ウ．最近経験した出来事を覚えにくくなる記憶障害
- エ．認知機能は保たれ、筋力だけが低下する。

答え・解説

正答：ウ

ア：幻視はレビー小体型認知症で目立つことがあるが、唯一の症状ではない。

イ：片麻痺は脳血管障害でみられ得るが、アルツハイマー型の典型的初期像とは異なる。

ウ：新しい出来事の記憶低下はアルツハイマー型認知症で早期からみられやすい。

エ：認知症は認知機能低下を伴う。

総合解説：同じ質問を繰り返すなどの変化があっても、叱責せず安心できる応答と生活上の工夫を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0012

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：基礎

レビー小体型認知症の特徴として、最も適切なものはどれか。

- ア．最近の出来事の物忘れだけで他の症状は起らない。
- イ．社会的に不適切な行動だけが必ず最初に出る。
- ウ．脳血管障害がなければ発症しない。
- エ．具体的な幻視、パーキンソン症状、認知機能の変動などがみられることがある。

答え・解説

正答：エ

ア：記憶障害以外の特徴もある。

イ：脱抑制は前頭側頭型認知症で目立つことがある。

ウ：レビー小体型認知症は脳血管障害を必須としない。

エ：レビー小体型認知症では幻視、動作緩慢・歩行障害、認知機能の変動などが特徴となり得る。

総合解説：幻視を頭ごなしに否定すると不安が強くなることもあるため、本人の感じている恐怖や不安を受け止め、安全を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0013

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

血管性認知症について、最も適切なものはどれか。

- ア．脳梗塞や脳出血など脳血管障害に関連し、障害部位によって症状の現れ方が異なる。
- イ．必ず幻視だけで始まる。
- ウ．脳血管障害とは関係がない。
- エ．全員が同一の認知症状を同じ順序で示す。

答え・解説

正答：ア

ア：血管性認知症は脳血管障害と関連し、構音障害や歩行障害などを伴う場合がある。

イ：幻視だけで定義されない。

ウ：病態上、脳血管障害との関連が重要である。

エ：症状は障害部位や程度により異なる。

総合解説：既往歴、麻痺や構音の変化、歩行状態などを含めて観察し、急な変化は医療職へ報告する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0014

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

前頭側頭型認知症で比較的目的立ちやすい特徴はどれか。

- ア．初期から必ず著しい片麻痺が出る。
- イ．脱抑制、常同行動、社会的行動の変化や言語の障害がみられることがある。
- ウ．幻視だけが唯一の症状である。
- エ．加齢による物忘れと常と同じ経過をとる。

答え・解説

正答：イ

ア：片麻痺は別の神経疾患等でもみられる。

イ：前頭葉・側頭葉の障害により、物忘れより先に行動・人格・言語の変化が目立つ場合がある。

ウ：幻視はレビー小体型が目立ちやすい。

エ：前頭側頭型には特徴的な行動・言語変化がある。

総合解説：不適切に見える行動を「わざと」と判断せず、症状と環境の関係を考え、予測しやすい生活構造を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0015

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：基礎

正常圧水頭症でみられ得る組合せとして、最も適切なものはどれか。

- ア．幻視、発熱、咽頭痛
- イ．難聴、白内障、皮膚乾燥
- ウ．歩行障害、認知機能低下、尿失禁
- エ．片頭痛、花粉症、手荒れ

答え・解説

正答：ウ

ア：正常圧水頭症の代表的組合せではない。

イ：加齢で併存し得るが正常圧水頭症の代表症候ではない。

ウ：正常圧水頭症では歩行障害・認知機能低下・尿失禁が代表的な症候として知られる。

エ：正常圧水頭症の代表症候ではない。

総合解説：認知機能低下をすべて変性性認知症と決めつけず、歩行や排尿の変化も含めて医療につなぐ視点が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0016

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

認知症様の症状を呈する原因のうち、治療によって改善する可能性があるものとして最も適切なものはどれか。

- ア．すべてのアルツハイマー型認知症が完全に可逆的である。
- イ．加齢による変化は必ず薬で元に戻る。
- ウ．認知症様症状は原因を調べる必要がない。
- エ．慢性硬膜下血腫や甲状腺疾患、ビタミン欠乏など

答え・解説

正答：エ

ア：アルツハイマー病は可逆性疾患として扱わない。

イ：通常に加齢変化を一律に薬で戻せるとはいえない。

ウ：治療可能な原因を見逃さないため評価が必要である。

エ：一部の原因は治療によって認知機能が改善する可能性があり、鑑別が重要である。

総合解説：介護職は診断を行わないが、頭部打撲後の変化、急な歩行悪化、食欲や意識の変化などを具体的に報告する役割がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0017

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

高齢者の認知機能低下をみたとき、うつ状態との鑑別について最も適切な考え方はどれか。

ア．うつ状態でも記憶や集中の低下がみられることがあり、症状の経過や気分、生活機能を含めて評価する。

イ．「忘れた」と訴える人は認知症ではないと断定できる。

ウ．認知症とうつ状態は同時に存在しない。

エ．介護職が短時間の会話だけで診断名を確定する。

答え・解説

正答：ア

ア：うつ状態は認知症に似た認知機能低下を伴うことがあり、単一症状で区別しない。

イ：自覚の有無だけで診断できない。

ウ：併存する可能性もある。

エ：診断は医療的評価を要する。

総合解説：本人の訴えを軽視せず、睡眠・食欲・意欲・表情・活動性なども観察し、医療職と情報共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0018

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

認知症とせん妄の違いとして、最も適切なものはどれか。

ア．せん妄は必ず数年かけてゆっくり進行する。

イ．せん妄は急性に発症し注意や意識の変動が目立つことが多く、認知症は一般により持続的な認知機能低下を示す。

ウ．認知症では急な体調変化を評価する必要はない。

エ．せん妄と認知症は同時に起こらない。

答え・解説

正答：イ

ア：せん妄は急性経過が特徴である。

イ：急な発症と日内変動、注意障害はせん妄を疑う重要な手がかりである。

ウ：認知症の人でも急変時には身体疾患やせん妄評価が必要である。

エ：認知症にせん妄が重なることはある。

総合解説：「認知症だから」と急変を見逃さない。発熱、脱水、疼痛、便秘、薬剤変更など身体要因の確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0019

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：基礎

MCIと認知症を区別する際に特に重要な視点はどれか。

- ア．年齢だけで区別する。
- イ．血圧だけで区別する。
- ウ．認知機能低下が日常生活の自立にどの程度影響しているか。
- エ．身長だけで区別する。

答え・解説

正答：ウ

ア：年齢だけでは区別できない。

イ：血圧はリスク評価に関係し得るが診断の区別そのものではない。

ウ：MCIでは認知機能低下があっても日常生活の自立が概ね保たれることがある。

エ：身長は認知症とMCIの区別に用いない。

総合解説：生活機能の変化を具体的に把握することは、早期の相談・支援につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0020

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：応用

Dさんは認知機能の良い時と悪い時の差が大きく、「子どもが部屋にいる」と具体的な幻視を訴え、歩幅も小さくなっている。最も考えやすい原因疾患はどれか。

- ア．アルツハイマー型認知症だけ
- イ．前頭側頭型認知症だけ
- ウ．正常な加齢変化
- エ．レビー小体型認知症

答え・解説

正答：エ

ア：アルツハイマー型でも症状は多様だが、この組合せはDLBをより示唆する。

イ：前頭側頭型では脱抑制や常同行動などが目立ちやすい。

ウ：幻視や歩行変化を正常加齢だけで説明しない。

エ：認知機能の変動、具体的な幻視、パーキンソン症状の組合せはレビー小体型認知症を示唆する。

総合解説：介護職は疾患名を断定するのではなく、幻視の内容、認知機能の変動、転倒歴、歩行状態を具体的に記録・共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0021

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：応用

認知症のあるEさんが、前日まで会話できていたのに、今朝から急にぼんやりして会話がかみ合わず、発熱もある。介護職の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．「認知症が進行した」と決めつけず、急性疾患やせん妄を疑ってバイタルや全身状態を確認し、速やかに医療職へ報告する。

イ．数週間そのまま経過をみる。

ウ．本人を叱って覚醒させる。

エ．認知症の人には発熱評価は不要と判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：急な認知・意識の変化と発熱は身体疾患やせん妄を疑う所見であり、医療連携が必要である。

イ：急変時に待機のみとするのは危険である。

ウ：叱責は原因評価にならず不安を強める。

エ：認知症があっても身体疾患の評価は必要である。

総合解説：認知症の慢性経過と、せん妄・感染症等による急変を区別することは介護現場の重要な安全課題である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0022

認知症の基礎 > 原因疾患・鑑別 | 難易度：標準

認知症の原因疾患と特徴の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ア．レビー小体型認知症—幻視は起こらない。

イ．前頭側頭型認知症—脱抑制や常同行動が目立つことがある。

ウ．血管性認知症—脳血管障害とは無関係である。

エ．アルツハイマー型認知症—新しい出来事の記憶は初期から必ず完全に保たれる。

答え・解説

正答：イ

ア：レビー小体型では具体的な幻視が特徴になり得る。

イ：前頭側頭型では行動・人格変化や常同行動、言語障害が比較的早期からみられることがある。

ウ：血管性認知症は脳血管障害との関連が重要である。

エ：アルツハイマー型では新しい記憶の低下が目立ちやすい。

総合解説：疾患ごとの「典型」を覚える一方、実際には混合病理や個人差があるため、症状だけで断定しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0023

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：基礎

BPSDへの理解として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の性格の悪さだけが原因である。
- イ．環境の影響は受けない。
- ウ．本人の認知機能障害だけでなく、身体状態、心理、環境、人との関わりなどが影響して現れることがある。
- エ．すべての認知症の人に同じ症状が必ず出る。

答え・解説

正答：ウ

ア：症状を人格の問題と決めつけない。

イ：環境調整で改善する場合がある。

ウ：BPSDは一律に「認知症だから起こる」と見るのではなく、複数の背景要因を考える。

エ：症状の有無や程度には個人差がある。

総合解説：行動を止めることだけを目標にせず、痛み、不安、空腹、排泄、騒音など「なぜ起きているか」を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0024

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：標準

認知症のFさんが夕方になると出口を探して歩き続ける。最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．すぐに椅子へ身体拘束する。
- イ．「歩いてはいけない」と大声で叱る。
- ウ．理由を確認せず鎮静だけを目的にする。
- エ．本人の目的や不安、排泄・痛み・帰宅願望など背景を確認し、安全に歩ける環境や関わり方を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：安易な身体拘束は尊厳・安全の両面で問題がある。

イ：叱責は不安や興奮を強めることがある。

ウ：原因評価をせず症状抑制だけを図るのは適切でない。

エ：歩行行動には本人なりの目的や不安がある場合があり、背景評価が先になる。

総合解説：安全確保と自由の尊重を両立させ、環境調整・見守り・活動の工夫を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0025

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：標準

Gさんが「財布を盗まれた」と訴え、介護職を疑っている。対応として最も適切なものはどれか。

ア．「盗まれて不安なのですね」と感情を受け止め、一緒に確認するなど安心につながる対応をする。

イ．「そんなはずはない」と繰り返し論破する。

ウ．本人の訴えを笑って否定する。

エ．以後、財布の話題を一切禁止する。

答え・解説

正答：ア

ア：事実関係の訂正より先に、本人の不安や困りごとを受け止めることが重要である。

イ：論争は不信や興奮を強めることがある。

ウ：嘲笑は尊厳を損なう。

エ：話題を禁じるだけでは不安の背景に対応できない。

総合解説：紛失しやすい物の置き場所を一緒に決めるなど、予防的な環境調整も有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0026

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：標準

普段は穏やかなHさんが急に興奮し、落ち着かなくなった。介護職が確認すべきこととして最も適切なものはどれか。

ア．認知症の症状として何も確認しない。

イ．痛み、発熱、便秘、尿閉、脱水、睡眠不足、薬剤変更など身体・環境要因を確認する。

ウ．本人の人格が変わったと断定する。

エ．全員に同じ対応を機械的に行う。

答え・解説

正答：イ

ア：急変の原因評価を省略しない。

イ：急な行動変化では身体的不調や環境変化を原因候補に含める。

ウ：人格と決めつけない。

エ：個別性に応じた評価が必要である。

総合解説：BPSDと思われる場面でも、まず身体疾患や苦痛のサインを見逃さないことが安全につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0027

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：基礎

せん妄の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず何年もかけて徐々に進行する。
- イ．注意機能は常に正常である。
- ウ．急に出現し、注意や意識の状態が時間帯によって変動することがある。
- エ．身体疾患や薬剤の影響とは無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：慢性的な認知症とは時間経過が異なる。

イ：注意障害はせん妄の重要な特徴である。

ウ：せん妄は急性発症と変動する注意・意識障害が重要な特徴である。

エ：感染、脱水、薬剤など様々な要因が関係する。

総合解説：せん妄が疑われる場合は、原因となる身体状態の評価と早期の医療連携が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0028

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：標準

せん妄を起こしやすくする要因への対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．夜間は完全な暗闇にして見当識手がかりをなくす。
- イ．眼鏡や補聴器は必ず外す。
- ウ．昼夜逆転を促すため日中の活動を避ける。
- エ．脱水や感染、疼痛、便秘、睡眠の乱れ、薬剤の影響などを評価し、必要な対応につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：過度な暗さは不安や見当識低下につながる場合がある。

イ：感覚補助具は適切に使用することで環境理解を助ける。

ウ：日中の適度な活動と生活リズムは重要である。

エ：せん妄は複数要因で生じ得るため、身体状態・薬剤・環境を広く見る。

総合解説：介護職が日常の変化を早く捉えることで、せん妄の重症化や事故の予防につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0029

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：応用

レビー小体型認知症のIさんが「床に小さな動物がいる」と怯えている。最も適切な対応はどれか。

ア．本人の恐怖を受け止め、安全を確認し、照明や模様など幻視を誘発しやすい環境要因も見直す。

イ．「見えるはずがない」と強く否定する。

ウ．怖がる様子を面白がる。

エ．本人を一人にして放置する。

答え・解説

正答：ア

ア：本人には現実に見えている体験であるため、感情を受け止め、安全と環境を整える。

イ：強い否定は不安や不信を高めることがある。

ウ：嘲笑は尊厳を損なう。

エ：恐怖が強い時の放置は安全上適切でない。

総合解説：幻視の内容、時間帯、照明、睡眠、薬剤等を記録し、チームで共有すると支援の手がかりになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0030

認知症の基礎 > BPSD・せん妄 | 難易度：応用

認知症のJさんに「夜間に大声を出す」行動がみられた。介護職の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．認知症の人の大声は原因を調べる必要がない。

イ．行動だけをBPSDと決めつけず、発症時期、注意・意識の変動、身体症状、環境変化を確認してせん妄等も検討する。

ウ．夜間の行動はすべて性格による。

エ．一つの行動だけで原因疾患を確定する。

答え・解説

正答：イ

ア：行動の背景評価が必要である。

イ：同じ「大声」という行動でも背景は異なり、急性変化ならせん妄や身体疾患を含めた評価が必要である。

ウ：性格と決めつけない。

エ：単一行動で診断を確定しない。

総合解説：BPSDのケアでは「症状を消す」より、本人の苦痛や原因を特定し、非薬物的・環境的支援を検討する姿勢が基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0031

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：基礎

パーソン・センタード・ケアの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．認知症の人は全員同じ生活に合わせる。
- イ．本人の意思より職員の効率を常に優先する。
- ウ．認知症の症状だけでなく、その人の価値観、生活歴、関係性、保たれている力を含めて本人を中心に支援する。
- エ．行動を減らすことだけをケアの目的にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：個別性を尊重する。
イ：支援は本人主体を基本とする。
ウ：診断名ではなく「その人」を中心に捉えることが基本である。
エ：行動の背景や生活の質も重要である。
総合解説：本人の「できないこと」だけでなく、「できること」「大切にしてきたこと」を支援計画に反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0032

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：基礎

認知症のある人への関わりとして、最も適切なものはどれか。

- ア．子ども扱いする話し方をする。
- イ．本人の前で本人のことを第三者同士だけで決める。
- ウ．失敗を皆の前で繰り返し指摘する。
- エ．本人を診断名で一括りにせず、一人の成人として丁寧に呼びかけ、選択や意見を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：幼児扱いは尊厳を損なう。
イ：本人を意思決定から外さない。
ウ：羞恥や自尊心への配慮が必要である。
エ：認知症があっても人格と尊厳は変わらない。
総合解説：認知症の有無にかかわらず、本人への敬意ある呼称・説明・同意確認を基本とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0033

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：標準

元料理人のKさんは、食堂で落ち着かず何度も厨房付近へ行く。パーソン・センタード・ケアとして最も適切な対応はどれか。

- ア．生活歴を確認し、安全な範囲で食事準備や配膳など本人が役割を感じられる活動を検討する。
- イ．厨房へ近づくたびに一律に叱る。
- ウ．「認知症だから意味はない」と判断する。
- エ．何もさせず終日座ってもらう。

答え・解説

正答：ア

ア：過去の職業や役割は、現在の行動の意味や本人らしい活動を考える手がかりになる。

イ：叱責は不安や自尊心低下につながる。

ウ：行動の意味を探ることが重要である。

エ：過度な活動制限は残存能力やQOLを損なう。

総合解説：生活歴を知ることが「なぜこの行動をするのか」を理解し、本人らしい役割を再構築する助けとなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0034

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：標準

Lさんは「何を着ますか」と聞かれると迷って答えられない。意思決定支援として最も適切な方法はどれか。

- ア．職員が毎回無断で決める。
- イ．本人が理解しやすいよう季節に合う2着を示し、実物を見ながら選べるようにする。
- ウ．選べないなら選択の機会を今後なくす。
- エ．10着を一度に見せて急いで決めさせる。

答え・解説

正答：イ

ア：代行を先行させず、本人の意思決定を支援する。

イ：選択肢を整理し、具体物を用いて意思形成・表明を助けることが有効である。

ウ：意思決定能力を一律に否定しない。

エ：選択肢が多すぎると負担が増える場合がある。

総合解説：意思決定支援は「代わりに決めること」ではなく、本人が決められるよう情報や環境を整えることから始まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0035

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：標準

認知症のMさんの支援計画を考えると、最も適切な視点はどれか。

- ア．できないことだけを一覧にする。
- イ．事故防止のため全ての活動を中止する。
- ウ．難しいことと同時に、保たれている能力、習慣、本人が得意なことを把握し活用する。
- エ．本人の過去の成功体験は支援に関係ないとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：欠点中心の把握では本人らしい支援につながりにくい。

イ：安全と活動の両立を検討する。

ウ：ストレングスに着目すると、自立・参加・役割の維持につながりやすい。

エ：成功体験は自信や役割の手がかりになる。

総合解説：「できる部分まで奪わない」ことが、認知症ケアの自立支援において重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0036

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：応用

軽度認知症のNさんは毎朝近所を散歩したいと希望しているが、家族は転倒を心配して全面禁止を求めている。最も適切な支援はどれか。

- ア．家族の希望だけで即座に永久禁止する。
- イ．本人の希望だけを聞いて転倒リスクを一切評価しない。
- ウ．本人に説明せず外出できないよう鍵をかける。
- エ．本人の希望を確認し、履物、歩行状態、時間帯、同行・見守り、GPS等の代替策を検討して安全と自己決定の両立を図る。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意思を支援に含める必要がある。

イ：安全評価も必要である。

ウ：本人の自由を過度に制限する方法は慎重な検討が必要である。

エ：リスクを理由に一律禁止するのではなく、本人の希望と安全を両立する方法を検討する。

総合解説：パーソン・センタード・ケアでは、ゼロリスクを目指して生活を奪うのではなく、本人にとっての利益と危険を具体的に調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0037

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：標準

Oさんが毎日夕方に「子どもを迎えに行かなければ」と玄関へ向かう。最も適切な捉え方はどれか。

- ア．過去の家族役割や時間帯の不安など、本人にとっての意味を生活歴から探る。
- イ．嘘をついていると決めつける。
- ウ．無意味な徘徊として扱う。
- エ．毎回「子どもはもう大人だ」と強く訂正する。

答え・解説

正答：ア

ア：本人の行動は過去の役割や現在の不安と結びついている可能性がある。

イ：認知機能障害による体験を意図的な嘘と決めない。

ウ：行動の意味を探る。

エ：繰り返す訂正が不安を強めることがある。

総合解説：行動の「正しさ」より、本人が何を心配し、何を果たそうとしているかを理解することがケアの出発点になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0038

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：基礎

認知症の人の生活支援で、馴染みの習慣を尊重する理由として最も適切なものはどれか。

- ア．全員を同じ時間割に合わせるため。
- イ．予測しやすさや安心感を高め、本人が保たれている力を発揮しやすくなるため。
- ウ．新しい刺激を完全に禁止するため。
- エ．本人の選択をなくすため。

答え・解説

正答：イ

ア：個別性を尊重するための考え方である。

イ：馴染みの手順や環境は混乱を減らし、生活行為を支える手がかりになる。

ウ：新しい経験を一律禁止するものではない。

エ：本人の選択を支えるための環境調整である。

総合解説：「いつもどうしていたか」を知り、可能な範囲で継続することが本人らしい生活につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0039

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：標準

認知症ケアで本人の文化的背景や価値観を確認することについて、最も適切なものはどれか。

- ア．認知症になると価値観はすべて失われる。
- イ．職員の価値観と違う場合は無視する。
- ウ．食事、信仰、家族関係、生活習慣など本人が大切にしてきた価値を支援に反映する。
- エ．文化的背景はケアに関係しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：認知症があっても価値や好みは尊重される。

イ：支援者の価値観を押しつけない。

ウ：パーソン・センタード・ケアでは、その人固有の価値観を尊重する。

エ：生活の質や安心に大きく関わる。

総合解説：本人が言葉で説明しにくい場合も、家族や生活歴、日常の反応から好みや選好を推定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0040

認知症の支援 > パーソン・センタード・ケア | 難易度：応用

施設で「何もすることがない」と話すPさんは、以前は毎日家族の洗濯物を畳んでいた。最も適切な支援はどれか。

- ア．「仕事ではないから」と役割を与えない。
- イ．効率が下がるため職員がすべて代行する。
- ウ．失敗防止のため本人には何も触らせない。
- エ．本人の希望を確認し、安全な範囲でタオルを畳むなど馴染みの役割を生活の中に取り入れる。

答え・解説

正答：エ

ア：役割の機会を奪う必要はない。

イ：本人が行える部分を残すことが自立支援になる。

ウ：失敗の可能性だけで活動を全面制限しない。

エ：本人が価値を感じる役割を持つことは、参加や自尊感情につながる。

総合解説：ケアは「してあげる量」を増やすことではなく、本人ができること・望むことに参加できる環境を整えることでもある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0041

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：基礎

認知症の人への話しかけ方として、最も適切なものはどれか。

- ア．一度に一つの内容を、短く具体的な言葉で伝え、反応を待つ。
- イ．複数の質問を続けて早口で行う。
- ウ．答える前に次の話題へ移る。
- エ．抽象的な比喻だけで説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：情報量を調整し、処理する時間を確保すると理解しやすくなる。

イ：情報量が多いと負担になる。

ウ：反応を待つ時間が必要である。

エ：具体的で理解しやすい表現が基本である。

総合解説：声の大きさだけでなく、速度・文の長さ・間の取り方を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0042

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：基礎

認知症の人への非言語的コミュニケーションとして、最も適切なものはどれか。

- ア．背後から突然大声で話す。
- イ．穏やかな表情、視線、身振り、適切な距離などを言葉と合わせて用いる。
- ウ．本人の表情を見ずに一方的に説明する。
- エ．威圧的に腕を組んで見下ろす。

答え・解説

正答：イ

ア：驚きや不安を招く。

イ：非言語情報は安心感や意味理解を補助する。

ウ：反応を確認することが重要である。

エ：威圧的な姿勢は信頼形成を妨げる。

総合解説：正面から名乗り、目線の高さを合わせるなど、安心してやり取りできる環境をつくる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0043

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：標準

Qさんが朝食を食べた直後に「まだ朝ごはんを食べていない」と言った。最も適切な対応はどれか。

ア．「何を食べたか言ってみて」とテストする。

イ．「さっき食べたでしょ」と強く叱る。

ウ．空腹感や不安を確認し、「食べたでしょう」と記憶を試すのではなく、状況に応じて安心できる説明や軽食の可否を検討する。

エ．話を無視して立ち去る。

答え・解説

正答：ウ

ア：テストは自尊感情を損なうことがある。

イ：叱責は不安や混乱を強める。

ウ：本人の記憶を試して失敗させるより、訴えの背景を確認する。

エ：訴えの背景を把握できない。

総合解説：「正しい記憶」を証明させることより、本人が何を感じているかに応答する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0044

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：標準

Rさんが亡くなった夫について「夫が帰ってこない」と不安そうに話している。最も適切な対応はどれか。

ア．「亡くなったことを忘れたのですか」と責める。

イ．死亡の事実を何度も突きつける。

ウ．泣いていても話題を禁止する。

エ．不安や寂しさを受け止め、「ご主人が気になるのですね」と話を聴く。

答え・解説

正答：エ

ア：責める対応は尊厳を損なう。

イ：繰り返し喪失体験を再体験させる可能性がある。

ウ：感情表出を封じるだけでは支援にならない。

エ：事実訂正を繰り返すより、本人の感情を受け止めることで安心につながる場合がある。

総合解説：本人の反応をみながら、思い出を語るなど安心につながる関わりを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0045

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：標準

認知症の人がトイレの場所を見つけやすくする環境調整として、最も適切なものはどれか。

- ア．見やすい位置にわかりやすい表示を置き、動線を単純にする。
- イ．廊下の表示をすべて外す。
- ウ．案内を毎日別の場所へ移す。
- エ．トイレ前に物を多く置いて目立たなくする。

答え・解説

正答：ア

ア：視覚の手がかりとわかりやすい動線は見当識を補う。

イ：手がかりをなくすと迷いやすくなる。

ウ：位置の一貫性が重要である。

エ：視覚的な混乱を増やす。

総合解説：表示は文字だけでなく絵記号や色、本人が理解しやすい手がかりを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0046

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：標準

食堂でテレビ、大きな会話音、食器音が重なり、Sさんが食事に集中できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．さらにBGMを大音量で流す。
- イ．テレビの音量を下げる、席を静かな場所にするなど不要な刺激を減らす。
- ウ．本人の不注意を叱る。
- エ．食事を中止して何も評価しない。

答え・解説

正答：イ

ア：刺激を増やすと注意がさらに分散する。

イ：注意が分散しやすい人には、刺激を整理すると活動に集中しやすい。

ウ：症状を本人の努力不足とみなさない。

エ：環境要因の調整を検討する。

総合解説：環境調整は本人を変えるのではなく、本人が力を発揮しやすい状況をつくる支援である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0047

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：標準

Tさんは日付を何度も尋ねる。介護職の対応として最も適切なものはどれか。

ア．「何度聞くのですか」と責める。

イ．質問に答えない。

ウ．大きなカレンダーや日めくり、予定表を本人と一緒に確認し、必要に応じて繰り返し伝える。

エ．カレンダーを見えない場所へ片づける。

答え・解説

正答：ウ

ア：叱責は不安を強める。

イ：必要な情報提供を拒まない。

ウ：見当識の手がかりを環境に置くことで自分で確認できる機会を増やせる。

エ：手がかりを活用できる位置に置く。

総合解説：道具を置くだけでなく、本人が実際に使えるかを観察して調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0048

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：基礎

認知症の人との意思疎通が急に悪くなったとき、確認事項として最も適切なものはどれか。

ア．認知症だから感覚器の確認は不要である。

イ．補聴器を必ず外して話す。

ウ．暗い部屋で口元を隠して話す。

エ．眼鏡や補聴器が適切に使えているか、耳垢や照明、騒音など感覚入力を妨げる要因がないか確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：感覚機能の評価も重要である。

イ：補聴器は適切に使用する。

ウ：視覚の手がかりが減り理解しにくくなる。

エ：感覚障害が重なると、認知機能低下が強く見えることがある。

総合解説：「わからない」の背景に聞こえ・見えの問題がないかを確認することは基本的な支援である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0049

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：応用

Uさんは自室から食堂へ行く途中で迷うことが増えた。本人の自立を支える方法として最も適切なものはどれか。

- ア．自室の扉に本人が分かる写真や目印を付け、食堂までの動線に一貫した案内表示を設ける。
- イ．移動のたびに職員が抱えて運ぶ。
- ウ．本人の部屋番号を毎日変更する。
- エ．迷うので自室から出ないようにする。

答え・解説

正答：ア

ア：個別の手がかりと一貫した動線は自立した移動を支援する。

イ：必要以上の代行は能力発揮の機会を奪う。

ウ：一貫性を失うと混乱しやすい。

エ：活動・参加を過度に制限する。

総合解説：環境を本人に合わせることで、介助量を増やさず自立を支えられる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0050

認知症の支援 > コミュニケーション・環境調整 | 難易度：応用

Vさんは入浴前に毎回「聞いていない」と怒り、職員の説明が伝わりにくい。補聴器の電池切れも多い。最も適切な対応はどれか。

- ア．怒るたびに入浴を強制する。
- イ．補聴器の状態を確認し、入浴予定が見える形で示し、正面から短く説明して本人の同意を確認する。
- ウ．聞こえないことを本人の認知症だけのせいにする。
- エ．予定を説明せず毎回突然浴室へ誘導する。

答え・解説

正答：イ

ア：強制は本人主体の支援ではない。

イ：感覚補助・視覚の手がかり・わかりやすい説明・意思確認を組み合わせる。

ウ：聴覚障害など他の要因を評価する。

エ：予測できない誘導は不安を強める。

総合解説：コミュニケーション困難は本人側だけの問題ではなく、支援者の伝え方や環境との相互作用として考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0051

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：基礎

認知症の人を介護する家族への支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．家族なら疲れを訴えるべきではないと伝える。
- イ．介護方法の失敗だけを責める。
- ウ．介護負担や感情を評価し、休息、相談、サービス利用など家族自身への支援も行う。
- エ．家族の希望や生活状況は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：家族の負担を否定しない。

イ：責めるより支援方法を一緒に考える。

ウ：家族も支援対象であり、負担の軽減は在宅生活の継続にも関係する。

エ：家族の生活も支援計画に関係する。

総合解説：家族の罪悪感や葛藤を受け止め、利用できる地域資源につなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0052

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：基礎

家族が「何度言っても本人が薬を忘れる」と怒っている。介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．「家族の監督不足です」と責める。
- イ．本人が努力すれば必ず解決すると断定する。
- ウ．問題を家族だけに任せる。
- エ．記憶障害の特徴を説明し、服薬カレンダーや支援体制など忘れにくい仕組みを家族と一緒に考える。

答え・解説

正答：エ

ア：責任追及は支援関係を損なう。

イ：認知機能障害は努力だけで解決しない。

ウ：多職種やサービスを含めて支援を考える。

エ：症状を本人の怠慢と捉えず、環境や方法を調整する。

総合解説：家族に病態理解と具体策を提供し、家族自身の負担も減らす視点が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0053

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：標準

家族介護者が休息を確保するための「レスパイト」に該当する支援はどれか。

- ア．短期入所や通所サービス等を活用し、家族が休息や自分の生活時間を確保できるようにする。
- イ．介護者が休むことを禁止する。
- ウ．サービス利用中も家族に常時付き添いを求める。
- エ．家族の疲労を支援の対象外とする。

答え・解説

正答：ア

ア：レスパイトは介護者が休息を取り、負担を調整する支援を指す。

イ：休息は介護継続にも重要である。

ウ：レスパイトの目的に反する。

エ：家族も支援対象である。

総合解説：介護者が限界になる前に、本人と家族双方に合うサービスを調整することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0054

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：標準

認知症カフェの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．認知症の診断を行う医療機関だけを指す。
- イ．認知症の本人や家族、地域住民、専門職などが交流し、情報交換や相談につながる場となる。
- ウ．本人は参加できず家族だけが利用する。
- エ．介護保険認定の審査だけを行う。

答え・解説

正答：イ

ア：医療機関の診断機能とは異なる。

イ：認知症カフェは孤立防止や地域とのつながりを支える取組の一つである。

ウ：本人も参加対象となる。

エ：認定審査の場ではない。

総合解説：地域の居場所を知っていることは、診断後の本人・家族の孤立を防ぐ支援につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0055

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：標準

認知症初期集中支援チームについて、最も適切なものはどれか。

- ア．介護施設の入所判定だけを行う。
- イ．認知症の人を地域から隔離する。
- ウ．認知症が疑われる人や家族を訪問し、医療・介護につながるための初期支援を包括的・集中的に行う。
- エ．家族への支援は行わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：入所判定専門組織ではない。

イ：地域生活支援が目的である。

ウ：早期の相談、アセスメント、医療・介護サービスへの接続を支援する仕組みである。

エ：家族も支援対象となる。

総合解説：受診拒否やサービス未利用など支援につながりにくいケースで、地域のチーム支援が重要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0056

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：標準

認知症地域支援推進員の役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．国家試験の採点だけを行う。
- イ．認知症の診断を単独で確定する。
- ウ．地域の見守り活動を禁止する。
- エ．地域で医療・介護・生活支援をつなぎ、認知症の人と家族を支える体制づくりを進める。

答え・解説

正答：エ

ア：試験運営とは無関係である。

イ：診断は医療機関で行う。

ウ：地域支援を促進する役割である。

エ：認知症地域支援推進員は地域の関係機関の連携や相談支援等を担う。

総合解説：地域の支援資源を把握し、本人・家族のニーズに応じて適切な窓口へつなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0057

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：応用

55歳で若年性認知症と診断されたWさんへの支援で、特に考慮すべきことはどれか。

- ア．就労、家計、子育て、配偶者の役割など現役世代特有の生活課題を含めて支援する。
- イ．高齢者施設への入所だけを唯一の選択肢とする。
- ウ．就労や社会参加は一律に中止する。
- エ．家族への説明は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：若年性認知症では仕事や家族役割への影響が大きく、年代に応じた支援が必要である。

イ：支援の選択肢を一律に限定しない。

ウ：本人の能力や希望に応じて社会参加を検討する。

エ：家族支援も重要である。

総合解説：若年性認知症支援コーディネーター等の専門的地域資源につなぐことも検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0058

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：標準

道に迷うことがあるXさんについて地域の見守り体制を作る際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．本人の同意や意向を全く考慮せず全情報を公開する。
- イ．本人・家族の意向やプライバシーに配慮しつつ、必要な範囲で地域関係者と連携し、早期発見につながる仕組みを整える。
- ウ．見守りのため外出を全面禁止する。
- エ．地域との連携は一切行わない。

答え・解説

正答：イ

ア：情報共有は必要性和範囲を検討する。

イ：安全確保と個人情報・尊厳の両立が必要である。

ウ：外出の自由を一律に奪わない。

エ：地域の見守りは有用な支援資源となる。

総合解説：SOSネットワーク等の活用では、本人を「危険な人」と扱わず、地域で安心して暮らすことを目的とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0059

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：基礎

認知症の人の支援について家族と話し合う際、最も適切な姿勢はどれか。

- ア．家族がいれば本人には一切確認しない。
- イ．本人の前では支援内容を説明しない。
- ウ．本人を可能な限り話し合いに参加させ、本人の意思や選好を中心に家族の情報も活用する。
- エ．家族の都合だけでサービスを決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の意思決定を支援することが原則である。

イ：本人への説明と参加が重要である。

ウ：家族の意見は重要だが、本人の意思を代替するものではない。

エ：本人中心で調整する。

総合解説：本人の意思が変化することもあるため、繰り返し確認し、チームで支援の妥当性を見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0060

認知症の支援 > 家族支援・地域支援 | 難易度：応用

市町村が認知症施策を見直す際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．専門職だけで決め、本人の参加を避ける。
- イ．本人の意見は症状があるため無効と扱う。
- ウ．家族の意見だけを唯一の根拠とする。
- エ．認知症の本人の声や経験を施策づくりに反映し、本人とともに地域の仕組みを検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人参画は重要である。

イ：認知症を理由に意見を排除しない。

ウ：家族の声も重要だが本人の声を置き換えない。

エ：現行施策は本人の声を起点とする地域づくりを重視している。

総合解説：共生社会では、本人を支援の「対象」だけでなく、地域づくりの主体として位置づける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0061

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：基礎

ICFの構成として、最も適切なものはどれか。

- ア．心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子などを相互に関連づけて生活機能を捉える。
- イ．障害を病名だけで分類する。
- ウ．知能指数だけで生活機能を決める。
- エ．本人の環境を評価対象から除外する。

答え・解説

正答：ア

ア：ICFは健康状態と生活機能・障害を多面的かつ相互作用的に捉える枠組みである。

イ：ICFは病名だけでなく生活機能を捉える。

ウ：単一指標で生活全体を判断しない。

エ：環境因子は重要な構成要素である。

総合解説：介護では「できない理由」を本人の機能だけに求めず、環境や支援によって活動・参加が変わることを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0062

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：基礎

ICFで「環境因子」に分類されるものの組合せはどれか。

- ア．本人の筋力だけ
- イ．建物の段差、家族や支援者の態度、福祉用具、社会制度
- ウ．本人の年齢だけ
- エ．本人の記憶力だけ

答え・解説

正答：イ

ア：筋力は心身機能に関する要素である。

イ：環境因子には物理的環境だけでなく、人の支援や態度、制度なども含まれる。

ウ：年齢は個人因子に関係する。

エ：記憶は心身機能に関する要素である。

総合解説：環境因子は「促進因子」にも「阻害因子」にもなり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0063

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：標準

ICFにおける「参加」の例として、最も適切なものはどれか。

- ア．ベッド上で膝を曲げる筋力だけを測る。
- イ．血圧を測定する。
- ウ．地域のサークルで仲間と活動する。
- エ．関節可動域を測定する。

答え・解説

正答：ウ

ア：筋力は心身機能に関係する。

イ：血圧は身体機能・健康状態の評価に関係する。

ウ：参加は生活・社会場面への関わりを示す。

エ：関節可動域は身体機能に関係する。

総合解説：同じ歩行能力でも、交通手段や周囲の支援によって地域参加の程度は変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0064

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：標準

障害の社会モデルの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．障害は本人の努力不足だけで生じると考える。
- イ．社会環境を変えても生活上の制限は変わらないと考える。
- ウ．支援の目標は本人を社会に一方的に合わせるだけとする。
- エ．生活上の制限は個人の機能障害だけでなく、社会の側にある障壁との相互作用で生じると考える。

答え・解説

正答：エ

ア：個人責任に還元しない。

イ：環境改善で活動・参加が改善し得る。

ウ：社会側の障壁を減らす視点を持つ。

エ：社会モデルでは、障害を個人だけの問題としてではなく社会環境との関係で捉える。

総合解説：介護では、介助方法や環境の工夫により本人の活動・参加を広げることができる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0065

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：標準

合理的配慮の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．障害のある人が直面する社会的障壁を除くため、個別の状況に応じて必要かつ合理的な調整を行うこと。
- イ．障害のある人に一律に同じ対応をすることだけを指す。
- ウ．本人の希望を聞かず支援者が勝手に決めることを指す。
- エ．事業の本質を必ず変更することを求める。

答え・解説

正答：ア

ア：合理的配慮は個性が高く、建設的対話を通じて検討される。

イ：個々のニーズに応じた調整が必要である。

ウ：本人との対話が重要である。

エ：本質的変更に及ばない範囲で検討する。

総合解説：筆談、読み上げ、段差解消など、具体的場面の障壁に応じて方法を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0066

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：応用

ユニバーサルデザインと合理的配慮の関係として、最も適切なものはどれか。

- ア．両者はまったく同じ意味である。
- イ．ユニバーサルデザインは多くの人々が利用しやすい環境をあらかじめ整える考え方で、合理的配慮は個別の障壁に応じた調整を行う。
- ウ．合理的配慮は障害のない人だけを対象とする。
- エ．ユニバーサルデザインがあれば個別配慮は常に不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：概念上の役割が異なる。

イ：一般的な環境整備と個別的調整は相互に補完する。

ウ：合理的配慮は障害者の権利利益確保に関係する。

エ：一般設計では解消できない個別ニーズがあり得る。

総合解説：施設全体を使いやすく整えた上で、必要な人には個別のコミュニケーション手段等を追加する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0067

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：基礎

障害のある人の支援で、最も適切な視点はどれか。

- ア．障害名だけで支援内容を決める。
- イ．本人の希望は支援に含めない。
- ウ．本人の機能だけでなく、本人の希望、強み、環境、支援資源を合わせて考える。
- エ．できないことだけを評価する。

答え・解説

正答：ウ

ア：同じ障害名でも支援ニーズは異なる。

イ：本人主体が基本である。

ウ：生活上の困難は本人と環境の相互作用で変化する。

エ：強みや環境を含めて把握する。

総合解説：診断名は重要な情報だが、生活支援の設計には個別の活動・参加・環境評価が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0068

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：標準

同程度の下肢麻痺があるAさんとBさんと、Aさんは地域活動に参加でき、Bさんは参加できていない。ICFの視点で最も適切な説明はどれか。

- ア．麻痺の程度が同じなら参加状況も必ず同じになる。
- イ．参加できないのは本人の意欲だけが原因である。
- ウ．環境は参加に影響しない。
- エ．交通手段、建物の段差、支援者、福祉用具など環境因子の違いが参加に影響している可能性がある。

答え・解説

正答：エ

ア：生活機能は相互作用で捉える。

イ：単一原因に決めつけない。

ウ：環境因子はICFの重要な要素である。

エ：同じ心身機能でも環境によって活動・参加は変わり得る。

総合解説：支援者は本人の訓練だけでなく、交通・建物・制度・支援者配置など社会環境も調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0069

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：標準

障害のある人への支援について、最も適切な考え方はどれか。

- ア．必要な医療・リハビリテーションを行いつつ、社会的障壁や環境も調整して活動・参加を支える。
- イ．医療だけで全ての生活課題が解決すると考える。
- ウ．環境だけを変えれば身体機能評価は不要と考える。
- エ．本人の選択より支援者の価値観を優先する。

答え・解説

正答：ア

- ア：個人への支援と環境への働きかけを対立させず組み合わせることが実践的である。
- イ：生活課題は医療だけでは解決しない場合がある。
- ウ：身体状況の評価も必要である。
- エ：本人主体で考える。

総合解説：ICFは医学的側面と社会的側面を統合して生活機能を捉える枠組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0070

障害の理解 > 障害概念・ICF・社会モデル | 難易度：応用

車いす利用者Yさんが、入口に2段の段差がある地域集会所を利用できない。社会モデルに基づく対応として最も適切なものはどれか。

- ア．「歩けない本人の問題」として参加を断る。
- イ．スロープ設置や別の段差のない入口の案内など、参加を妨げる環境上の障壁を除く方法を検討する。
- ウ．本人に無理な階段昇降を求める。
- エ．地域活動への参加自体を諦めてもらう。

答え・解説

正答：イ

- ア：社会的障壁の除去を検討する必要がある。
 - イ：利用困難を本人の身体機能だけの問題とせず、環境側の障壁を調整する。
 - ウ：安全上不適切である。
 - エ：参加機会を一律に奪わない。
- 総合解説：合理的配慮は、本人の意向を確認し、実施可能な代替策も含めて建設的に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0071

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：基礎

視覚障害のある人への支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．無言で突然身体を引っ張る。
- イ．「あそこ」「それ」だけで説明する。
- ウ．本人に声をかけて名乗り、必要に応じて位置や状況を具体的に言葉で説明する。
- エ．本人の意思を確認せず常に代行する。

答え・解説

正答：ウ

ア：驚きや不安を生じさせる。

イ：位置関係が伝わりにくい。

ウ：視覚情報を言語や触覚などで補うことが大切である。

エ：本人の自立と意思を尊重する。

総合解説：誘導方法は本人に確認し、肘や肩をつかんでもらうなど安全な方法を用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0072

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：基礎

聴覚障害のある利用者が説明を受ける場面で、支援者がまず行う対応として適切なのはどれか。

- ア．大声で話せば全員に伝わると決めつける。
- イ．口元を隠して背後から話す。
- ウ．本人ではなく同伴者にだけ話す。
- エ．本人が利用しやすい筆談、手話、口話、文字表示などの方法を確認して用いる。

答え・解説

正答：エ

ア：大声が有効とは限らない。

イ：視覚的手がかりが得られない。

ウ：本人への直接的な説明を基本とする。

エ：聴覚障害の程度やコミュニケーション方法には個人差がある。

総合解説：合理的配慮として、本人の希望する情報保障手段を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0073

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：標準

片麻痺のある人の更衣支援として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．本人ができる動作を確認し、必要な部分だけ介助し、使いやすい衣服や手順を工夫する。
- イ．安全のため全て職員が代行する。
- ウ．本人が時間をかけることを理由に実施させない。
- エ．麻痺側を一切使ってはいけなと決めつける。

答え・解説

正答：ア

ア：過介助を避け、残存機能を活用することが自立支援になる。

イ：必要以上の代行は能力発揮の機会を奪う。

ウ：時間だけで参加機会を奪わない。

エ：状態に応じて安全な使い方を検討する。

総合解説：身体障害があっても、本人の方法とペースを尊重し、福祉用具や環境調整を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0074

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：標準

脳損傷後にみられる「失語」の特徴として正しいものはどれか。

- ア．声が小さい状態だけを指す。
- イ．脳損傷などにより言葉を理解したり表現したりする言語機能が障害される状態である。
- ウ．舌や口唇の運動だけが悪い状態を必ず指す。
- エ．聴力低下そのものを指す。

答え・解説

正答：イ

ア：声量低下だけでは失語とはいわない。

イ：失語は言語機能の障害であり、発音の運動だけの問題とは異なる。

ウ：構音障害は発音運動の問題であり失語と区別する。

エ：聴覚障害とは異なる。

総合解説：失語があっても意思や判断力がすべて失われたとは限らず、意思表出を支える方法を工夫する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0075

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：標準

2026年4月施行の高次脳機能障害者支援法・施行令で、高次脳機能障害に含まれる認知機能障害として最も適切なものはどれか。

- ア．骨折だけ
- イ．視力低下だけ
- ウ．記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害、失語、失行、失認など
- エ．糖尿病だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：骨折単独は法令上の高次脳機能障害の定義ではない。

イ：視力低下単独は定義に該当しない。

ウ：現行法令ではこれらの認知機能障害が明示されている。

エ：糖尿病単独は認知機能障害の定義ではない。

総合解説：法制度の更新は国家試験で問われ得るため、古い行政定義だけに依存しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0076

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：標準

高次脳機能障害のZさんは、約束をすぐ忘れてしまう。支援として最も適切なものはどれか。

- ア．忘れるたびに叱る。
- イ．約束を一切しない。
- ウ．本人に説明せず全て家族に任せる。
- エ．予定表、スマートフォンの通知、メモなど本人が使える外的補助手段と一緒に整える。

答え・解説

正答：エ

ア：叱責は障害の改善につながらない。

イ：生活参加の機会を減らす必要はない。

ウ：本人が使える支援方法を一緒に考える。

エ：記憶障害では、環境や道具で記憶を補う方法が有効となることがある。

総合解説：補助手段は置くだけでなく、本人が習慣的に使えるよう練習と環境設定を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0077

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：標準

高次脳機能障害のAさんは、周囲の音が多いと作業ミスが増える。支援として最も適切なものはどれか。

- ア．静かな場所で一つずつ作業し、途中で休憩を入れるなど刺激量を調整する。
- イ．同時に複数の作業を与えて慣れさせる。
- ウ．騒音を増やして集中力を試す。
- エ．ミスを本人の怠慢として叱る。

答え・解説

正答：ア

ア：注意障害では選択・持続・分配などの注意機能に困難があるため、環境を整理する。

イ：負荷を過度に増やすと失敗が増える。

ウ：障害特性に合わない。

エ：努力不足と決めつけない。

総合解説：作業量・時間・環境を調整し、成功しやすい条件を見つけることが支援となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0078

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：応用

高次脳機能障害のBさんは、買い物の目的は理解しているが、必要品の確認から会計まで順序立てられない。最も適切な支援はどれか。

- ア．「自分で考えて」と一切支援しない。
- イ．買い物リストと手順表を用意し、一つずつ確認しながら実行できるようにする。
- ウ．買い物物を永久に禁止する。
- エ．本人の代わりに毎回無断で買う。

答え・解説

正答：イ

ア：必要な認知的支援を提供する。

イ：遂行機能障害では目標設定・計画・実行の支援として手順の外在化が有効である。

ウ：活動参加の機会を一律に奪わない。

エ：本人ができる部分を残す。

総合解説：計画に見える形にし、手順を分け、結果を振り返ることが自立支援につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0079

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：基礎

脳損傷後、左側の物に気づきにくいCさんへの食事支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．左側にだけ食器を置いて説明しない。
- イ．食べ残しを怠慢と決めつける。
- ウ．本人の状態を評価し、声かけや皿の位置調整、左側へ注意を向ける手がかりを個別に工夫する。
- エ．本人の見え方を確認せず全介助する。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全確認と段階的な支援が必要である。

イ：認知機能障害を努力不足としない。

ウ：空間認知の障害では、気づきやすい環境と注意を促す方法を組み合わせる。

エ：本人の能力を評価して必要部分を支援する。

総合解説：高次脳機能障害は外見から分かりにくいことがあり、行動の背景を障害特性から理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0080

障害の理解 > 身体障害・高次脳機能障害 | 難易度：応用

脳卒中後に右片麻痺と失語、注意障害があるDさんの支援として最も適切なものはどれか。

- ア．片麻痺だけに対応すればよい。
- イ．失語があるので意思確認は不要である。
- ウ．注意障害があるため全ての活動を中止する。
- エ．移動の身体介助だけでなく、理解しやすい言語・絵カード、注意が向きやすい環境を組み合わせで支援する。

答え・解説

正答：エ

ア：複数の障害を総合的に評価する。

イ：失語があっても意思表出を支援する。

ウ：環境調整しつつ活動を支える。

エ：身体機能と認知・コミュニケーションの複数障害を統合して支援する必要がある。

総合解説：障害が重複しても、本人の希望と保たれている能力を中心に支援方法を組み立てる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0081

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：基礎

知的障害の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．発達期から知的機能や日常生活上の適応に困難がみられ、必要な支援の程度には個人差がある。
- イ．成人後に突然起きた記憶障害だけを指す。
- ウ．知能指数だけで支援内容がすべて決まる。
- エ．本人の得意なことや環境は支援に関係しない。

答え・解説

正答：ア

ア：知的障害は知的機能だけでなく生活上の適応を含めて捉える。

イ：突然の後天性障害とは区別する。

ウ：単一の数値だけで生活支援を決定しない。

エ：強みや環境を含めて支援する。

総合解説：古い行政調査の数値基準を機械的に当てはめず、本人の生活機能と必要な支援を個別に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0082

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：基礎

知的障害のあるEさんに新しい通所先を説明する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．抽象的な長文だけを一度に説明する。
- イ．写真や絵、具体的な短い言葉を用い、実際に見学・体験できる機会を設ける。
- ウ．本人には説明せず家族だけに決めてもらう。
- エ．理解できないと決めつけ選択肢を示さない。

答え・解説

正答：イ

ア：情報を本人に合わせて調整する。

イ：理解しやすい情報と経験を用いることで意思決定を支援できる。

ウ：本人の意思決定を支援する。

エ：能力を一律に否定しない。

総合解説：絵カードや具体物などを使い、選択肢を絞ることは意思決定支援ガイドラインにも合致する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0083

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：標準

自閉スペクトラム症のFさんは予定の急な変更で強い不安を示しやすい。最も適切な支援はどれか。

- ア．毎日予定を意図的に突然変える。
- イ．不安をわがままと決めつける。
- ウ．予定を見える形で示し、変更がある場合は可能な限り事前に具体的に伝える。
- エ．説明をせず強制的に移動させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：予測不能性を増やす必要はない。

イ：障害特性を人格の問題としない。

ウ：見通しを持ちやすい環境は不安を減らす支援となることがある。

エ：本人に理解できる説明が必要である。

総合解説：発達障害の特性には個人差が大きいため、本人に合う視覚支援や休憩方法を探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0084

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：標準

注意欠如・多動症（ADHD）の人への支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．「集中できないのはやる気がない」と叱る。
- イ．一度に多数の指示を出す。
- ウ．忘れ物があるたびに支援を中止する。
- エ．作業を小さな手順に分け、必要な物だけを目につく位置に置き、確認方法を一緒に決める。

答え・解説

正答：エ

ア：特性を努力不足と決めつけない。

イ：指示量を調整する。

ウ：失敗から支援方法を調整する。

エ：注意の持続や整理の困難がある場合、環境を単純化し手順を明確にすると実行しやすい。

総合解説：本人の得意な方法や道具と一緒に探し、成功しやすい環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0085

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：標準

学習障害（LD）の理解として、最も適切なものはどれか。

- ア．全般的な知的発達の遅れとは別に、読む・書く・計算するなど特定の学習能力に著しい困難がみられることがある。
- イ．すべての認知能力が同程度に低いことを必須とする。
- ウ．成人になると必ず完全に消失する。
- エ．支援方法を変えても学習には影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：特定領域の学習困難を捉え、本人に合う方法で情報を提供する。

イ：全般的知的障害とは区別される。

ウ：成長後も困難が続く場合がある。

エ：情報提示方法の調整が有効な場合がある。

総合解説：文章だけでなく読み上げ、図表、デジタル機器など、得意な経路を活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0086

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：標準

発達障害のある人への支援で、最も適切な考え方はどれか。

- ア．診断名が同じなら全員に同じ支援をする。
- イ．同じ診断名でも特性の現れ方や強み、困りごとは異なるため、個別にアセスメントする。
- ウ．苦手なことだけを見て得意なことは評価しない。
- エ．本人の希望より特性の説明を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：個人差が大きい。

イ：診断名は支援の手がかりだが、支援内容は本人の生活に合わせる。

ウ：強みも重要な支援資源である。

エ：本人主体で支援を調整する。

総合解説：感覚過敏、コミュニケーション、注意、学習など複数の特性を具体的な生活場面で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0087

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：基礎

統合失調症の症状の組合せとして、最も適切なものはどれか。

- ア．幻聴だけが唯一の症状である。
- イ．必ず認知症と同じ経過をとる。
- ウ．幻聴・妄想などの陽性症状と、意欲低下・感情表現の乏しさなどの陰性症状がみられることがある。
- エ．筋力低下だけが中心症状である。

答え・解説

正答：ウ

ア：症状は多様である。
イ：認知症とは別の疾患である。
ウ：統合失調症では陽性症状と陰性症状の双方がみられ得る。
エ：精神症状が中心で、筋力低下だけでは説明できない。
総合解説：幻聴や妄想を本人の「嘘」と決めつけず、不安や安全に配慮して医療・福祉チームと連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0088

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：標準

抑うつ状態のGさんが「何をしても意味がない」と話し、食欲や睡眠も低下している。介護職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．「気合いが足りない」と励まし続ける。
- イ．本人の訴えを無視する。
- ウ．介護職だけで診断し薬を変更する。
- エ．気持ちを否定せず聴き、睡眠・食事・活動性や希死念慮などの変化を観察して医療職へ共有する。

答え・解説

正答：エ

ア：過度な励ましは負担になることがある。
イ：訴えを受け止め安全確認する。
ウ：薬剤変更は医療職の判断である。
エ：抑うつでは心身の変化と安全面を評価し、専門職につなぐことが重要である。
総合解説：「いつもと違う」睡眠・食欲・発言・活動性を具体的に記録して連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0089

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：応用

双極性障害の躁状態を疑う変化として、最も適切なものはどれか。

- ア．睡眠が少なくても疲れを感じず、活動性や話量が著しく増え、浪費や判断の変化がみられる。
- イ．数日間の軽い疲労だけ
- ウ．視力低下だけ
- エ．片麻痺だけ

答え・解説

正答：ア

ア：躁状態では気分高揚だけでなく、睡眠欲求低下、活動性増加、判断・行動の変化がみられることがある。

イ：単独では躁状態を説明しない。

ウ：視力低下は眼科的問題等を考える。

エ：片麻痺は神経学的評価が必要である。

総合解説：本人は調子が良いと感じて病識が乏しい場合があるため、周囲が平常時との変化を捉えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0090

障害の理解 > 知的・発達・精神障害 | 難易度：応用

知的障害と自閉スペクトラム症があるHさんが、新しい日中活動を選ぶ場面で言葉だけの説明では黙り込んでしまう。最も適切な支援はどれか。

- ア．家族だけで決定して本人には知らせない。
- イ．写真付きの選択肢を少数示し、見学・体験の機会を作り、本人の表情や選択を繰り返し確認する。
- ウ．選べないと判断して選択機会をなくす。
- エ．抽象的な説明を長時間続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の意思決定参加を確保する。

イ：本人が理解しやすい手段と実体験を使い、意思形成・表明を支援する。

ウ：支援を工夫して意思を確認する。

エ：理解しやすい方法に調整する。

総合解説：障害の種類が複数あっても、本人に意思があることを前提に、コミュニケーション手段と環境を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0091

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：基礎

障害のある利用者への意思決定支援として、最も適切なのはどれか。

ア．支援者が本人に代わって最も効率的な選択を決める。

イ．本人が可能な限り自ら意思決定できるよう情報提供や環境調整を行い、その意思や選好を生活に反映できるよう支援する。

ウ．家族の希望が明確であれば本人への確認を省略する。

エ．判断に迷う利用者には選択肢を示さず現状を維持する。

答え・解説

正答：イ

ア：支援者の効率を優先して代行決定することは本人主体ではない。

イ：意思決定支援は本人の自己決定を最大限支える考え方である。

ウ：家族の意向は重要な情報だが、本人の意思確認を省略する根拠にはならない。

エ：迷いがあるときこそ理解しやすい情報や経験の機会を整える。

総合解説：本人が意思を形成・表明・実現できるよう支えることが中心であり、代行決定を常態化させない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0092

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：基礎

言葉で希望を伝えることが難しい利用者の外出先を決める支援として、最も適切なのはどれか。

ア．職員会議で多数決をして外出先を決める。

イ．家族が選んだ場所を本人の希望とみなす。

ウ．表情、視線、行動、過去の好みを観察し、写真や実物を使って選択を試しながら本人の選好を確かめる。

エ．意思表示が難しいため外出自体を中止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：職員の多数決は本人の意思そのものではない。

イ：家族の情報は参考になるが、本人の反応や選好の確認が必要である。

ウ：言語以外の表出や生活史も意思・選好を推定する重要な情報になる。

エ：表出が難しいことを理由に活動機会を奪わない。

総合解説：本人の反応を丁寧に読み取り、意思を表出しやすい手段と経験の機会を用意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0093

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：基礎

新しい障害福祉サービスの利用を検討する本人への説明として、最も適切なのはどれか。

- ア．専門用語をそのまま使い、一度だけ説明する。
- イ．不安を生じさせないため不利益や制約は説明しない。
- ウ．本人が理解しやすい言葉や図、見学・体験などを用い、利点と注意点を比較できるように説明する。
- エ．理解に時間がかかるため家族だけに説明する。

答え・解説

正答：ウ

ア：理解可能性に合わせて表現や回数を調整する必要がある。

イ：重要な不利益を伏せると十分な意思形成を妨げる。

ウ：分かりやすい情報と実際の経験は意思形成を支える。

エ：本人への説明を中心に、必要に応じて家族等とも共有する。

総合解説：選択に必要な情報を本人に届く形で提供し、比較・検討できる条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0094

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：標準

意思決定能力の捉え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．意思決定の内容や状況によって必要な理解や支援は異なるため、個別の場面ごとに支援方法を検討する。
- イ．一度判断が難しかった人は、すべての決定を他者に任せる。
- ウ．障害名が同じなら意思決定能力も同じと判断する。
- エ．成年後見制度を利用している人には本人への意思確認は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：意思決定のしやすさは事項や環境、支援方法によって変わり得る。

イ：一つの場面の困難を全領域へ一般化しない。

ウ：診断名だけで本人の理解や選好を決めつけない。

エ：後見等があっても本人の意思尊重と意思決定支援は重要である。

総合解説：能力を固定的に評価するのではなく、決定内容と支援条件を具体的に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0095

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：標準

本人の意思の確認が難しい場合の支援として、最も適切なものはどれか。

ア．本人の意思・選好の確認や推定を十分に試み、それでも困難な場合に最終手段として最善の利益を検討する。

イ．最初から支援者が最善と思う方法を選ぶ。

ウ．意思確認が難しければ費用が最も安い選択にする。

エ．本人の過去の希望は現在の支援には使わない。

答え・解説

正答：ア

ア：ガイドラインでは本人の意思・選好を可能な限り確認・推定することが先である。

イ：最善の利益の検討を本人の意思確認より先に置かない。

ウ：費用だけで本人の利益を判断することは適切でない。

エ：生活史や過去の選択は意思・選好を推定する手掛かりとなる。

総合解説：「本人のため」を理由に安易な代行決定をせず、本人の意思を探る過程を尽くす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0096

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：標準

障害のある人の「自立生活」の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．必要な支援を利用しながら、本人が生活の選択や決定に関わり、自分らしい地域生活を営むことである。

イ．他者の支援を一切受けずに生活することである。

ウ．身の回りのことをすべて一人でできることだけを指す。

エ．家族と同居していれば自立生活とはいえない。

答え・解説

正答：ア

ア：自立は支援の有無ではなく、本人の選択・参加・生活の主体性を含む。

イ：支援を受けることと自立は両立する。

ウ：身体的自立だけに限定しない。

エ：居住形態だけで自立の有無を判断しない。

総合解説：支援を活用して本人の選択を実現することも自立生活の重要な形である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0097

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：標準

一人暮らしを希望する利用者に転倒歴がある。支援者の対応として、最も適切なのはどれか。

ア．転倒歴があるため本人の希望にかかわらず施設入所を決める。

イ．本人が望む生活を確認し、転倒リスクを具体化したうえで住宅調整や見守りサービス等の対策を一緒に検討する。

ウ．危険を説明せず、一人暮らしをそのまま開始する。

エ．転倒を完全に防げないため支援計画を作らない。

答え・解説

正答：イ

ア：リスクだけで選択肢を奪うのは過度な制限になり得る。

イ：リスクをゼロにすることだけでなく、本人の希望と安全策を両立させる。

ウ：説明と準備なしに開始するのも安全な意思決定支援ではない。

エ：残るリスクを評価しながら具体的な支援計画を作る。

総合解説：本人の希望を尊重しつつ、合理的なリスク低減策を共同で設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0098

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：標準

意思決定支援の記録として、最も適切なのはどれか。

ア．本人が示した希望や反応、提供した情報、支援者間で検討した内容、決定後の結果を記録し見直しに活用する。

イ．最終決定だけを記録し、過程は残さない。

ウ．職員の意見だけを記録し本人の反応は省略する。

エ．一度決めた内容は本人が変更を希望しても修正しない。

答え・解説

正答：ア

ア：意思決定支援は過程と結果を記録し、モニタリングと見直しにつなげる。

イ：過程がないと意思・選好をどう確認したか検証できない。

ウ：本人の表出は支援の中心的情報である。

エ：意思や状況は変化するため再評価が必要である。

総合解説：記録は本人の意思を継続して支えるための共有手段でもある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0099

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：応用

個別支援計画を見直す会議の進め方として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が参加・表明しやすい日時や場所、説明方法を工夫し、本人の希望を計画に反映する。
- イ．本人が緊張する可能性があるので常に本人抜きで開催する。
- ウ．家族と専門職が合意すれば本人への説明は不要とする。
- エ．会議では支援者の都合だけでサービス内容を決める。

答え・解説

正答：ア

ア：本人が意思を表明できる条件を整えて参加を支えることが重要である。

イ：必要な配慮をせず参加機会を一律に奪わない。

ウ：本人への説明・確認は省略できない。

エ：支援計画は本人の生活を支えるものであり、支援者都合が中心ではない。

総合解説：本人の参加方法そのものを個別に調整することが意思決定支援になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0100

障害のある人への支援 > 自立生活・意思決定支援 | 難易度：応用

以前は就労を希望していた利用者が、最近は「しばらく生活を整えたい」と話している。最も適切な対応はどれか。

- ア．過去の希望を優先し、就労支援を変更しない。
- イ．現在の希望とその背景を改めて確認し、体調や生活状況も踏まえて計画を見直す。
- ウ．本人の発言は一時的と決めつけて記録しない。
- エ．家族が就労を望んでいれば本人の希望は扱わない。

答え・解説

正答：イ

ア：過去の希望は参考情報だが現在の意思を固定するものではない。

イ：意思は変化し得るため、現在の意思と状況を確認して支援計画に反映する。

ウ：本人の新たな表明は検討すべき重要な情報である。

エ：家族の希望だけで本人の意思を排除しない。

総合解説：意思決定支援は一回限りではなく、生活状況や本人の考えの変化に応じて継続する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0101

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：基礎

視覚障害のある利用者を初めて屋内誘導するときの対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．声をかけて本人の希望する誘導方法を確認し、必要なら支援者の肘や腕につかまってもらい、段差などを具体的に伝える。
- イ．無言で利用者の腕をつかんで引っ張る。
- ウ．白杖の先を支援者が持って進行方向へ動かす。
- エ．危険防止のため常に後ろから両肩を押す。

答え・解説

正答：ア

ア：まず本人に声をかけ、誘導方法の希望を確認しながら情報を言語化する。

イ：突然身体をつかむと不安や転倒につながり得る。

ウ：白杖は本人が環境を確認するための用具であり、勝手に操作しない。

エ：本人のバランスや意思を無視した押し方は避ける。

総合解説：障害名だけで方法を決めず、本人に確認し具体的な環境情報を伝える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0102

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：基礎

聴覚障害のある利用者への重要事項の説明として、最も適切なのはどれか。

- ア．大声だけで繰り返せば十分である。
- イ．本人ではなく同席者だけに説明する。
- ウ．聞き取れなかった内容は重要でなければ省略する。
- エ．本人が使いやすい手段を確認し、口形が見える位置、筆談、手話、文字表示などを組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：大声が有効とは限らず、かえって聞き取りにくい場合もある。

イ：本人を説明の中心から外さない。

ウ：重要事項は理解できる形で確実に伝える必要がある。

エ：聴こえ方とコミュニケーション手段は個人差が大きく、本人に確認して調整する。

総合解説：情報保障は本人が意思決定に参加するための基盤である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0103

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：基礎

失語症があり言葉が出にくい利用者への関わりとして、最も適切なのはどれか。

- ア．理解力も低下していると決めつけて子ども扱いする。
- イ．言葉が出ないときは本人の代わりにすぐ答える。
- ウ．聞こえやすくするため常に大声で話す。
- エ．短く分かりやすく話し、返答を急がせず、指差しや絵なども使って意思確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：失語症だけで知的能力全体を低く評価しない。

イ：待つことも表出支援の重要な要素である。

ウ：失語症は単純な難聴とは異なるため大声が基本ではない。

エ：表出の困難と理解の程度は同一ではなく、時間と代替手段を用意する。

総合解説：本人の残存能力を生かし、複数のコミュニケーション手段で意思を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0104

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：標準

高次脳機能障害による記憶障害がある人の服薬・予定管理を支える方法として、最も適切なのはどれか。

- ア．忘れるたびに強く叱って覚えさせる。
- イ．記憶訓練のためメモは禁止する。
- ウ．予定表、スマートフォンの通知、チェックリストなど本人が使える外的補助手段を一貫して活用する。
- エ．予定は支援者だけが管理し本人には知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：叱責は記憶機能そのものを改善せず心理的負担を高める。

イ：補助手段を禁止する必要はない。

ウ：外的補助手段は記憶障害を補い生活の自立を支える。

エ：本人が自分の予定を把握できるよう支えることが重要である。

総合解説：機能障害を補う道具や環境調整も生活支援の一部である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0105

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：標準

遂行機能障害があり、複数の家事を始めると途中で混乱する利用者への支援として、最も適切なのはどれか。

- ア．自立を促すため手順説明を一切しない。
- イ．混乱した時点で家事を全面的に禁止する。
- ウ．作業を小さな手順に分け、順番を見える化して一つずつ確認できるようにする。
- エ．毎回違う手順で行わせ柔軟性を鍛える。

答え・解説

正答：ウ

ア：必要な支援を外すことが自立支援とは限らない。

イ：安全を保ちながらできる活動が続ける工夫が重要である。

ウ：手順の構造化や視覚化は遂行機能の困難を補う。

エ：一貫性のない手順は混乱を増やし得る。

総合解説：課題を分解し環境を整えることで本人が自分で進められる部分を増やす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0106

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：標準

予定変更で強い不安が生じやすい発達障害のある利用者への支援として、最も適切なのはどれか。

- ア．慣れさせるため予告せず頻繁に予定を変える。
- イ．不安を示してもわがままと捉えて対応しない。
- ウ．曖昧な表現だけで「適当に対応して」と伝える。
- エ．変更内容をできるだけ早く具体的に伝え、見通しを示す予定表や図を使って確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：予測可能性を下げる対応は不安を強め得る。

イ：行動の背景にある特性や不安を評価する。

ウ：具体的で理解しやすい表現を用いる。

エ：見通しの持ちやすい情報提示や構造化は不安軽減に役立つ場合がある。

総合解説：本人の特性と強みに合わせて情報の形式や環境を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0107

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：標準

知的障害のある利用者にサービス契約の内容を説明する方法として、最も適切なのはどれか。

- ア．契約書を渡せば説明は完了とする。
- イ．本人には難しいと決めつけ家族だけに説明する。
- ウ．理解確認の質問は本人に失礼なので行わない。
- エ．短い文や具体例、図や写真を用い、本人の言葉で説明してもらうなどして理解を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：書面だけでは理解できたか確認できない。

イ：本人への説明を省略しない。

ウ：確認は尊厳を損なうものではなく、伝え方を調整するために必要である。

エ：情報を分かりやすくし、本人の理解を確かめることが意思決定を支える。

総合解説：本人の理解しやすさに合わせた説明と確認を繰り返す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0108

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：標準

統合失調症のある利用者が「誰かに監視されている」と強く不安を訴える。介護職の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．訴えの内容を事実と断定せず不安な気持ちを受け止め、安全を確認し、必要に応じて医療職へ共有する。
- イ．監視されているという考えに同意し一緒に犯人を探す。
- ウ．『そんなことは絶対はない』と強く論破する。
- エ．話題にすると悪化するため訴えを無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：妄想内容を肯定も対決もせず、本人の苦痛と安全に焦点を当てる。

イ：妄想を事実として強化する対応は避ける。

ウ：強い否定や論争は信頼関係を損なうことがある。

エ：訴えの背景にある不安や急変を観察する必要がある。

総合解説：精神症状がある場面では感情の受容、安全確認、チームでの情報共有が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0109

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：応用

車いす利用者が自分で移乗できるが時間がかかる。朝の介助で最も適切なのはどれか。

- ア．時間短縮のため毎回全介助にする。
- イ．急がせず本人の方法と必要な介助範囲を確認し、できる動作は本人が行えるよう環境を整える。
- ウ．転倒予防のため本人の動作を禁止する。
- エ．本人の希望を聞かず介助方法を固定する。

答え・解説

正答：イ

ア：効率のみで本人の能力発揮を奪わない。

イ：できる活動を生かし必要部分だけ支援することは自立支援につながる。

ウ：リスクは評価するが一律禁止ではなく安全な方法を検討する。

エ：状態や希望に応じて介助方法を調整する。

総合解説：障害特性だけでなく本人の能力・生活目標・環境を合わせて支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0110

障害のある人への支援 > 障害特性に応じた生活支援 | 難易度：応用

障害特性に応じた生活支援を考える際の視点として、最も適切なのはどれか。

- ア．診断名から必要な介助量を一律に決める。
- イ．できない活動は環境を検討せず代行する。
- ウ．支援は身体機能の訓練だけに限定する。
- エ．本人の心身機能だけでなく、道具、情報提示、人の関わり、住環境などを調整し活動と参加を広げる。

答え・解説

正答：エ

ア：同じ診断名でも生活機能と支援ニーズは異なる。

イ：環境調整で本人が行える活動が増える場合がある。

ウ：生活支援は参加や社会生活を含む広い視点が必要である。

エ：生活上の困難は本人の機能と環境の相互作用で変化する。

総合解説：ICFや社会モデルの視点から、本人だけを変えるのではなく環境側の調整も行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0111

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：基礎

障害福祉サービスの体系について、最も適切なのはどれか。

ア．すべてのサービスは介護給付に分類される。

イ．地域生活支援事業は全国で内容が完全に同一である。

ウ．障害福祉サービスには、介護の支援を中心とする介護給付と、訓練等の支援を中心とする訓練等給付がある。

エ．障害福祉サービスは障害名だけで自動的に決定される。

答え・解説

正答：ウ

ア：訓練等給付に位置付けられるサービスもある。

イ：地域生活支援事業は地域の実情に応じて実施される。

ウ：厚生労働省は障害福祉サービスを介護給付と訓練等給付等に整理している。

エ：個別の状況を踏まえて支給決定等が行われる。

総合解説：制度名だけでなく、本人の生活上のニーズとサービス機能を結びつけて理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0112

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：基礎

計画相談支援の説明として、最も適切なのはどれか。

ア．住居を直接提供することだけを目的とする。

イ．障害福祉サービス等の利用に向けてサービス等利用計画を作成し、利用後もモニタリングなどを行う。

ウ．医師の診断書を発行する制度である。

エ．就職先を必ずあっせんする制度である。

答え・解説

正答：イ

ア：住居提供そのものに限定された制度ではない。

イ：計画相談支援はサービス利用の計画作成と継続的な見直しを支える。

ウ：医療診断は計画相談支援の機能ではない。

エ：就労支援のみを目的とする制度でもない。

総合解説：本人の希望や課題を整理し、必要なサービスと関係機関をつなぐケアマネジメント機能がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0113

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：基礎

地域移行支援の対象となる支援内容として、最も適切なのはどれか。

ア．地域生活を始めた後の緊急連絡だけを行う。

イ．施設や精神科病院等から地域生活へ移るため、住居確保や相談、外出同行、関係機関との調整などを行う。

ウ．施設への長期入所を促進することを目的とする。

エ．介護保険の要介護認定だけを代行する。

答え・解説

正答：イ

ア：地域生活後の常時連絡等は地域定着支援の役割が中心となる。

イ：地域移行支援は地域生活への移行準備を具体的に支える。

ウ：地域移行支援は施設入所の固定化を目的としない。

エ：要介護認定代行の制度ではない。

総合解説：本人が地域で暮らすための住まい・体験・関係機関調整を支援する制度である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0114

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：標準

地域定着支援の説明として、最も適切なのはどれか。

ア．施設から地域へ移る前の住居探しだけを行う。

イ．単身生活などで地域生活を継続する障害者に、常時の連絡体制を確保し、緊急時の相談や関係機関との調整を行う。

ウ．日中の就労訓練だけを提供する。

エ．家族の介護を必須条件として支援する。

答え・解説

正答：イ

ア：移行前の準備は地域移行支援と区別する。

イ：地域定着支援は地域生活継続中の緊急時対応や連絡調整を支える。

ウ：就労訓練のみのサービスではない。

エ：家族支援が得られにくい場合も対象として想定される。

総合解説：地域で暮らし続けるための安心を支える相談支援の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0115

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：標準

自立生活援助の利用が想定される場面として、最も適切なのはどれか。

ア．常時医療処置が必要な人に入院医療を提供する場面。

イ．就労先で職業訓練だけを行う場面。

ウ．施設やグループホーム等から一人暮らしに移行し、生活上の困りごとの把握や助言、関係機関との調整が必要な人。

エ．短時間の外出時に車いすを押すことだけが必要な場面。

答え・解説

正答：ウ

ア：医療提供そのものを目的とする制度ではない。

イ：就労訓練に限定されない。

ウ：自立生活援助は単身等の地域生活を訪問・相談・連絡調整で支える。

エ：単発の移動介助だけを目的とするサービスではない。

総合解説：生活の中で起こる多様な課題を把握し、地域生活を継続できるよう支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0116

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：標準

共同生活援助（グループホーム）の説明として、最も適切なのはどれか。

ア．病院に入院して治療を受ける制度である。

イ．一般企業への就職だけを目的とした職業紹介である。

ウ．利用者全員が同一の生活目標を持つことを条件とする。

エ．共同生活を行う住居で、主として夜間や休日に相談や日常生活上の援助を受けながら暮らすサービスである。

答え・解説

正答：エ

ア：医療機関への入院とは異なる。

イ：就職紹介のみを目的とする制度ではない。

ウ：個別支援計画に基づき本人ごとのニーズに対応する。

エ：共同生活援助は地域の住まいの場の一つである。

総合解説：地域生活の選択肢として、本人の希望と必要な支援を踏まえて利用を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0117

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：標準

障害福祉サービスの居宅介護について、最も適切なのはどれか。

- ア．住居の所有権を利用者へ移す制度である。
- イ．入院中の治療方針を決定する制度である。
- ウ．居宅で入浴、排せつ、食事等の介護や家事、生活に関する相談・助言など必要な支援を行う。
- エ．就労契約を締結するためだけの制度である。

答え・解説

正答：ウ

ア：住宅取得制度ではない。
イ：医療上の治療方針決定を行う制度ではない。
ウ：居宅介護は自宅での日常生活を支える訪問系サービスである。
エ：就労契約だけを目的としない。
総合解説：本人が地域の自宅で暮らし続けるための具体的な生活支援として活用される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0118

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：標準

家族が介護を続けている障害者について、家族の入院で数日間自宅介護が難しくなった。制度上検討する支援として、最も適切なのはどれか。

- ア．家族が不在なら本人も必ず医療機関へ入院させる。
- イ．短期入所などを含め、本人の希望と必要性を確認しながら一時的な生活支援を調整する。
- ウ．家族の責任なので公的サービスは利用できない。
- エ．本人への説明をせず空いている施設へ決める。

答え・解説

正答：イ

ア：医療的必要性がないのに入院を前提にしない。
イ：短期入所は介護者の事情等により一時的に介護が必要な場合の選択肢となり得る。
ウ：家族支援も制度利用の重要な視点である。
エ：本人への説明・意思確認を行って調整する。
総合解説：家族の休息や急な事情に対応する社会資源を使い、本人と家族の生活継続を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0119

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：応用

地域生活支援事業について、最も適切なのはどれか。

- ア．市町村等が地域の実情や利用者の状況に応じて柔軟に実施する事業が含まれる。
- イ．全国でサービス内容・回数・利用条件がすべて同一である。
- ウ．障害福祉サービスの介護給付と完全に同じ仕組みである。
- エ．医療保険からのみ給付される。

答え・解説

正答：ア

ア：地域生活支援事業は地域の実情に応じた柔軟な実施が特徴の一つである。

イ：地域差があり得るため具体的利用条件は自治体確認が必要である。

ウ：障害福祉サービスとは制度上区分される。

エ：医療保険だけで実施される制度ではない。

総合解説：移動支援や地域活動支援センター等、地域生活を補完する資源を自治体ごとに確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0120

障害のある人への支援 > 制度・社会資源・家族支援 | 難易度：応用

障害のある本人と同居家族への支援として、最も適切なのはどれか。

- ア．本人の支援計画は家族の負担軽減だけで決める。
- イ．本人の意思を尊重するとともに、家族自身の負担や希望も別に把握し、相談先やレスパイト等の資源を必要に応じて調整する。
- ウ．家族がいる場合は公的支援の利用を控える。
- エ．家族を本人の代弁者とみなし、本人への意思確認を行わない。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の生活目標を家族負担だけで決めない。

イ：本人と家族はそれぞれ支援ニーズを持つ主体として捉える。

ウ：家族がいても必要な公的支援を検討できる。

エ：家族の意見は参考になるが本人の意思そのものとは限らない。

総合解説：本人の地域生活と家族の生活の双方が持続できるよう、制度・相談支援・地域資源を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0121

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：基礎

喀痰吸引等制度で扱われる喀痰吸引の部位の組合せとして、適切なのはどれか。

- ア．口腔内、食道内、胃内である。
- イ．口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部である。
- ウ．鼻腔内、胸腔内、腹腔内である。
- エ．口腔内、気管支鏡下、胸腔内である。

答え・解説

正答：イ

ア：食道内や胃内は喀痰吸引の対象部位ではない。

イ：法令上の研修項目には口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の喀痰吸引がある。

ウ：胸腔・腹腔内吸引は介護職が行う喀痰吸引等の範囲ではない。

エ：気管支鏡下吸引は制度上の介護職の特定行為ではない。

総合解説：実施可能な行為は法令・研修・登録等の要件と、個別の医師の指示の範囲で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0122

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：基礎

介護福祉士が業務として喀痰吸引等を行う際の基本として、最も適切なのはどれか。

- ア．介護福祉士登録があれば、どの利用者にも独断で実施できる。
- イ．家族が依頼すれば医師の指示は不要である。
- ウ．事業所の手順書があれば研修や個別指示は不要である。
- エ．必要な教育・実地研修等の要件を満たし、医師の指示や関係職種との連携の下で定められた範囲を実施する。

答え・解説

正答：エ

ア：資格名だけで無条件に全行為を実施できるわけではない。

イ：家族の希望だけで医療的ケアの実施要件は代替できない。

ウ：手順書に加えて法令・研修・医師の指示等が必要である。

エ：喀痰吸引等は制度上の要件と医師の指示の下で行われる。

総合解説：医療的ケアは介護職単独ではなく、安全管理体制と多職種連携の中で実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0123

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：基礎

喀痰吸引を行う前の確認として、最も適切なのはどれか。

ア．吸引が予定されていれば体調確認は不要である。

イ．痰がなくても定時にあれば必ず吸引する。

ウ．呼吸状態、顔色、意識、痰の貯留状況などを観察し、通常と異なる場合は指示系統に沿って相談する。

エ．利用者が苦痛を訴えても予定回数を優先する。

答え・解説

正答：ウ

ア：予定だけで状態観察を省略しない。

イ：不要な吸引は粘膜損傷や苦痛の原因になり得る。

ウ：吸引の必要性和安全性はその時点の状態を確認して判断する。

エ：本人の苦痛や急変兆候を無視しない。

総合解説：医療的ケアでは実施前・中・後の観察を一連の安全管理として行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0124

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：基礎

喀痰吸引時の感染予防として、最も適切なのはどれか。

ア．手袋を着ければ手指衛生は不要である。

イ．同じ吸引カテーテルを複数利用者と共用する。

ウ．吸引後の汚染物は清潔物と同じ場所に置く。

エ．実施前後に手指衛生を行い、手袋などを必要に応じて使用し、吸引カテーテルや接続部を不潔にしない。

答え・解説

正答：エ

ア：手袋は手指衛生の代替にならない。

イ：利用者間での器具共用は交差感染の危険を高める。

ウ：清潔物と汚染物を区別して扱う。

エ：手指衛生と器具の清潔な取り扱いが感染予防の基本である。

総合解説：感染対策は手技の前後を通じた一連の行動として実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0125

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

口腔内の喀痰吸引で最も適切な対応はどれか。

- ア．痰が取れないときは咽頭奥へ強く押し込む。
- イ．定められた手順と個別の実施範囲を守り、粘膜を傷つけないよう静かにカテーテルを操作する。
- ウ．抵抗があっても力を入れて挿入する。
- エ．出血しても予定量の痰が取れるまで続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：深く強く挿入することは安全な手技ではない。

イ：吸引は粘膜損傷や反射を避けるよう必要範囲で慎重に行う。

ウ：抵抗がある場合に無理に進めない。

エ：出血等の異常があれば中止し状態を確認する。

総合解説：『痰を取ること』より利用者の安全を優先し、異常時は中止・報告する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0126

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

鼻腔内吸引中に利用者が強く痛み、カテーテルの挿入に抵抗がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．抵抗を越えるまでカテーテルを強く押す。
- イ．出血しても吸引を続ければよい。
- ウ．吸引圧を最大にして一気に挿入する。
- エ．無理に押し込まずいったん中止し、状態を確認して必要に応じて医療職へ報告する。

答え・解説

正答：エ

ア：抵抗部を力で通過させるのは危険である。

イ：出血は異常所見として評価が必要である。

ウ：吸引圧を上げて挿入上の安全性は高まらない。

エ：鼻腔粘膜は損傷・出血の危険があるため無理な挿入をしない。

総合解説：痛みや抵抗など通常と異なる所見を見逃さず、安全を優先して中止・相談する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0127

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

介護職が制度上扱う気管切開部の喀痰吸引について、適切なのはどれか。

- ア．定められた実施範囲は「気管カニューレ内部」の吸引であり、個別の指示・手順を守る。
- イ．気管支の奥まで自由にカテーテルを挿入できる。
- ウ．気管カニューレを介護職が独断で交換してから吸引する。
- エ．気管切開孔の状態が急変しても吸引だけを続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：制度上の行為名称は気管カニューレ内部の喀痰吸引である。

イ：範囲を超える深い吸引を独断で行わない。

ウ：カニューレ交換は吸引とは別の医療行為であり独断で行わない。

エ：急変時は吸引継続より安全確保と報告が優先される。

総合解説：実施範囲を正確に理解し、利用者ごとの指示を逸脱しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0128

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

気管カニューレ内部の吸引を行う際の考え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．痰が少量でも30秒以上連続吸引する。
- イ．吸引中は呼吸状態を観察する必要はない。
- ウ．時間を短くするため吸引圧を最大にする。
- エ．吸引は必要最小限の時間でいい、研修手順で示された上限を超えないよう呼吸状態を観察する。

答え・解説

正答：エ

ア：長時間連続吸引は避ける。

イ：実施中の呼吸状態観察は重要である。

ウ：過度の吸引圧は安全性を損なう。

エ：長時間の吸引は低酸素や粘膜損傷の危険を高めるため短時間で行う。

総合解説：時間・圧・挿入範囲を手順どおりに管理し、状態変化があれば直ちに対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0129

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

喀痰吸引中に顔色が悪くなり、呼吸が苦しそうになった。最初の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．吸引を中止して利用者の状態を確認し、応援要請・医療職への連絡など緊急時手順に従う。
- イ．痰を全部取るまで吸引を続ける。
- ウ．記録を先に完成させてから状態確認する。
- エ．吸引圧を上げて短時間で終了させる。

答え・解説

正答：ア

ア：急変時は手技を中止し、呼吸・意識等を確認して緊急対応へ移る。

イ：手技の完遂より生命・安全が優先される。

ウ：記録は安全確保の後に行う。

エ：吸引圧増加は状態悪化を招く可能性がある。

総合解説：異常の早期認識、中止、応援要請、報告という流れを身につける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0130

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：標準

吸引した痰の観察として、最も適切なのはどれか。

- ア．痰が吸引できれば性状は確認しなくてよい。
- イ．血液が混じっていても少量なら必ず無視する。
- ウ．量、色、粘り、におい、血液混入などを観察し、普段との違いを必要に応じて報告・記録する。
- エ．痰の色だけ記録し呼吸状態は記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：吸引結果の観察もケアの一部である。

イ：血液混入などの異常は程度と状態を確認して報告する。

ウ：痰の性状は感染や出血、脱水などの変化に気づく手掛かりになる。

エ：痰だけでなく利用者の全身・呼吸状態も併せて記録する。

総合解説：『普段との違い』を具体的に共有することがチームの早期対応につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0131

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：応用

喀痰吸引後の物品管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．汚水が満杯になるまで処理しない。
- イ．吸引器の汚水を素手で処理する。
- ウ．使用物品を手順に従って処理し、吸引器の汚水や周囲の汚染に注意して清潔物と区分する。
- エ．清潔なカテーテルを汚染物の上に置いて保管する。

答え・解説

正答：ウ

ア：汚水は安全な運用基準に従って管理する。

イ：汚染物に触れる際は曝露リスクに応じた防護が必要である。

ウ：吸引器や汚染物は感染源になり得るため適切な処理が必要である。

エ：清潔物と汚染物を分離する。

総合解説：実施後の片付けまで含めて医療的ケアの安全手順である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0132

医療的ケア > 喀痰吸引 | 難易度：応用

喀痰吸引を受ける利用者が毎回強く緊張する。介護職の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．実施前に分かりやすく説明し、本人の合図や休止方法を確認し、必要最小限の吸引で苦痛軽減を図る。
- イ．不安が強いほど説明せず素早く始める。
- ウ．抵抗しても安全のため身体を強く押さえて続ける。
- エ．本人の苦痛は手技に影響しないので記録しない。

答え・解説

正答：ア

ア：説明や合図の確認は本人の安心と協力を得る上で重要である。

イ：突然の開始は不安を高める。

ウ：身体拘束的な対応を安易に行わない。

エ：苦痛や不安もケア評価・情報共有の対象である。

総合解説：医療的ケアでも利用者の尊厳、同意、苦痛の軽減を重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0133

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：基礎

喀痰吸引等制度で扱われる経管栄養の組合せとして、適切なものはどれか。

- ア．中心静脈栄養と末梢静脈栄養である。
- イ．経口摂取と点滴のみである。
- ウ．胃切除術と腸切除術である。
- エ．胃ろう又は腸ろうによる経管栄養と、経鼻経管栄養である。

答え・解説

正答：エ

ア：静脈栄養は喀痰吸引等制度の特定行為ではない。

イ：経口摂取は経管栄養ではない。

ウ：手術は介護職の医療的ケアの範囲ではない。

エ：法令上の研修項目には胃ろう・腸ろうによる経管栄養と経鼻経管栄養がある。

総合解説：経管栄養の種類と、それぞれに必要な確認・連携を区別して理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0134

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：基礎

経管栄養を開始する前の介護職の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．予定時刻なら体調に関係なく開始する。
- イ．眠っていれば説明や観察なしで注入する。
- ウ．本人の体調、呼吸、腹部症状、嘔気などを観察し、医師・看護職の確認事項と個別の指示が満たされているか確認する。
- エ．腹部膨満が強くても量を減らさず開始する。

答え・解説

正答：ウ

ア：時刻より安全性が優先される。

イ：意識・反応や本人への説明を軽視しない。

ウ：経管栄養前には全身状態と消化器症状を確認し、異常時は開始せず相談する。

エ：腹部膨満などは状態変化として報告・確認が必要である。

総合解説：『いつも通り』を基準にし、変化があるときは独断で開始しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0135

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：基礎

経鼻経管栄養を開始する前のチューブ位置確認について、最も適切なのはどれか。

- ア．介護職が空気を注入して音を聞けば必ず単独で確認できる。
- イ．介護職がチューブを抜き差しして位置を調整する。
- ウ．チューブが正確に胃内に留置されていることの最終的な確認は医師又は看護職員が行う。
- エ．外見上ずれていなければ医療職の確認は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：空気注入音だけを根拠に介護職が最終判断しない。

イ：チューブの挿入・再挿入を独断で行わない。

ウ：厚生労働省資料では胃内留置の確認は医師・看護職が行う事項とされる。

エ：外見だけでは正確な胃内留置を確定できない。

総合解説：経鼻経管栄養では役割分担を明確にし、介護職が判断範囲を越えないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0136

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：標準

胃ろう周囲に強い発赤と出血がみられ、普段と違う痛みを訴えている。介護職の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．予定時刻を守るためそのまま注入する。
- イ．注入を開始せず状態を観察し、医師・看護職へ報告して指示を受ける。
- ウ．介護職がチューブを抜いて挿し直す。
- エ．発赤部に自己判断で薬剤を塗って注入を続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：異常時に予定優先で注入しない。

イ：ろう孔周囲の異常は安全な注入可否に関わるため医療職の評価が必要である。

ウ：チューブ交換・再挿入を独断で行わない。

エ：薬剤使用や注入継続を自己判断しない。

総合解説：異常を見つけたときに『しない・報告する』判断が重大事故防止につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0137

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：標準

経管栄養中の体位について、最も適切なのはどれか。

ア．必ず完全な仰臥位で行う。

イ．体位は注入速度に影響しないので確認不要である。

ウ．個別の指示に基づき上体を起こすなど誤嚥を起こしにくい体位を整え、注入中も状態を観察する。

エ．本人がむせても体位を変えず注入を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：仰臥位を一律の基本とするのは適切でない。

イ：姿勢は安全性に関係するため確認が必要である。

ウ：誤嚥予防の観点から体位は重要で、個別指示に沿って整える。

エ：むせや呼吸変化があれば中止・評価が必要である。

総合解説：体位、注入速度、本人の状態を一体として観察する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0138

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：標準

経管栄養の注入速度について、最も適切なのはどれか。

ア．時間が遅れている場合は2倍の速さにする。

イ．本人が眠っていれば最速で注入する。

ウ．腹痛が出たときは速度を上げて早く終える。

エ．医師等の指示と手順に従い、自己判断で速めず、腹部症状や嘔気などを観察する。

答え・解説

正答：エ

ア：遅れを理由に独断で速度変更しない。

イ：睡眠中であっても安全手順は変わらない。

ウ：腹痛などの異常時は中止・報告を検討する。

エ：急速な注入は腹部症状や逆流等の危険につながるため指示された速度を守る。

総合解説：注入速度は『作業効率』ではなく安全性を基準に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0139

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：標準

経管栄養中に突然むせ込み、呼吸が苦しようになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．直ちに注入を停止し、呼吸状態を確認して応援を求め、医療職への連絡など緊急時手順に従う。
- イ．予定量が残っているので注入を続ける。
- ウ．注入速度を上げて早く終える。
- エ．本人を仰臥位にして様子を見るだけにする。

答え・解説

正答：ア

ア：むせ・呼吸苦は誤嚥等の危険を示すため注入を止め安全確保する。
イ：予定量の完遂より安全が優先される。
ウ：速度を上げるのは危険を増やす。
エ：呼吸苦時の仰臥位固定は適切とはいえず、状態に応じた緊急対応が必要である。
総合解説：異常時は『中止・観察・応援要請・報告』を迅速に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0140

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：標準

経管栄養終了後の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．指示された後処置と体位を保ち、嘔気、腹部膨満、逆流、呼吸状態などを観察して記録する。
- イ．注入が終われば直ちに観察を終了する。
- ウ．終了後の体位は本人の状態に関係なく必ず仰臥位にする。
- エ．異常がなければ実施記録は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：終了後も逆流や誤嚥、消化器症状に注意して観察する。
イ：注入後の状態確認までが安全なケアである。
ウ：体位は個別の指示・状態に応じる。
エ：異常の有無を含め記録・共有することが必要である。
総合解説：医療的ケアは準備・実施・後片付け・観察・記録まで一連のプロセスである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0141

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：応用

経管栄養チューブに抵抗があり、注入しにくい。介護職の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．強く押し込めば通るため高い圧をかける。
- イ．金属製の細い棒を入れて詰まりを取る。
- ウ．無理に圧をかけず注入を止め、手順に従って状態を確認し医療職へ報告する。
- エ．チューブを抜いて介護職が新しいものに交換する。

答え・解説

正答：ウ

ア：高圧で押し込むのは安全ではない。
イ：異物を挿入して閉塞解除を試みない。
ウ：閉塞が疑われるときに無理な加圧をすると損傷等の危険がある。
エ：チューブ交換を独断で行わない。
総合解説：異常な抵抗は手技を止めて報告するサインである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0142

医療的ケア > 経管栄養 | 難易度：応用

経管栄養を受ける利用者への支援として、最も適切なのはどれか。

- ア．経管栄養中は食事に関する楽しみや生活習慣を考える必要はない。
- イ．本人が不安を示しても説明は省略する。
- ウ．栄養量が確保できれば口腔内の清潔は不要である。
- エ．手技の説明と意思確認を行い、口腔ケアや姿勢、生活リズムにも配慮して、栄養注入だけに生活を限定しない。

答え・解説

正答：エ

ア：食に関する楽しみや生活の意味は医療的ケアだけでは捉えきれない。
イ：説明と本人の反応確認は重要である。
ウ：経口摂取が少なくても口腔衛生は必要である。
エ：経管栄養を行っていても本人の尊厳や生活全体を支える視点が必要である。
総合解説：医療的ケアを『処置』だけにせず、その人の生活の中に位置付けて支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0143

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：基礎

医療的ケアにおける感染予防の基本として、最も適切なものはどれか。

- ア．感染症と診断された利用者だけ手指衛生を行う。
- イ．手袋を着ければマスクやエプロンの検討は不要である。
- ウ．目に見える汚れがなければ汚染はないと判断する。
- エ．血液や体液、分泌物などには感染性がある可能性を考え、曝露リスクに応じて手指衛生や個人防護具を用いる。

答え・解説

正答：エ

ア：感染症の有無だけで基本対策を変えない。
イ：防護具は想定される曝露経路に応じて選ぶ。
ウ：微生物汚染は目視だけでは判断できない。
エ：標準予防策は感染症の診断の有無にかかわらず体液等への曝露を想定する。
総合解説：感染対策は『誰が感染者か』ではなく『どのような曝露があるか』を基準にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0144

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：基礎

喀痰吸引や経管栄養で手袋を使用した場合の手指衛生について、最も適切なものはどれか。

- ア．手袋に破れがなければ手指衛生は不要である。
- イ．手袋を外した後も手指衛生を行う。
- ウ．同じ手袋を着けたまま他の利用者のケアを行う。
- エ．手袋を洗淨して繰り返し使えばよい。

答え・解説

正答：イ

ア：手袋の微小な破損や外す際の汚染があり得る。
イ：手袋の使用は手指衛生の代替にならない。
ウ：利用者間で同一手袋を継続使用しない。
エ：使い捨て手袋を自己流で再利用しない。
総合解説：手指衛生と適切な手袋交換を組み合わせで交差感染を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0145

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：標準

医療的ケアを開始する直前の確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．慣れた利用者なら指示内容の確認は省略する。
- イ．物品不足があっても代用品で始める。
- ウ．本人、実施するケア、医師の指示、必要物品、緊急連絡方法、現在の体調を確認する。
- エ．緊急連絡先は急変してから探せばよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：慣れによる確認省略は事故につながり得る。
イ：医療的ケアの物品を安易な代用品で置き換えない。
ウ：実施前確認は間違いや準備不足を防ぐ基本である。
エ：急変時の連絡体制は事前に確認しておく。
総合解説：本人確認・指示確認・物品・体調・連絡体制をセットで点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0146

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：標準

医療的ケア中に利用者の反応が乏しくなり、呼吸状態も明らかに悪化した。最も適切なものはどれか。

- ア．予定のケアを終えてから報告する。
- イ．本人を一人にして記録を取りに行く。
- ウ．原因を介護職だけで確定してから連絡する。
- エ．手技を中止し、応援を求めて意識・呼吸等を確認し、事業所の緊急時手順に従って救急要請や救命処置につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：処置完遂より生命の安全が優先される。
イ：急変した本人を一人にしない。
ウ：診断確定を待たず、観察事実を伝えて緊急対応する。
エ：重篤な急変では手技の中止、安全確認、応援要請、必要な救急対応を優先する。
総合解説：緊急時は役割分担と連絡経路を平時から共有しておくことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0147

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：標準

医療職へ急変を報告するときの内容として、最も適切なのはどれか。

ア．『何となく変です』だけ伝える。

イ．いつ、どのケア中に、どのような変化が起き、呼吸・意識などがどうなり、何を実施したかを具体的に伝える。

ウ．本人の基礎情報や実施中のケアは伝えない。

エ．自分の推測した病名だけを伝える。

答え・解説

正答：イ

ア：曖昧な表現だけでは緊急度が伝わりにくい。

イ：時刻・状況・観察事実・実施した対応を具体的に共有すると判断に役立つ。

ウ：関連する背景と実施行為も重要である。

エ：診断名の推測より観察事実を正確に伝える。

総合解説：急変時報告は簡潔かつ具体的に、事実と対応を中心に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0148

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：標準

経鼻経管栄養チューブが予定より大きく抜けていることに気づいた。介護職の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．元の長さまで介護職が押し戻して注入する。

イ．経管栄養を開始せず、チューブを自己判断で戻さず、医師・看護職へ報告する。

ウ．位置確認をせず少量だけ注入して様子を見る。

エ．テープで固定し直せばそのまま使用できる。

答え・解説

正答：イ

ア：再挿入・位置調整を独断で行わない。

イ：位置ずれが疑われる場合は注入せず医療職の確認が必要である。

ウ：少量でも誤った位置への注入は危険である。

エ：固定だけでは胃内留置を保証できない。

総合解説：『いつもと違う長さ』などの変化を見逃さず、実施を止めることが安全管理の要点である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0149

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：応用

医療的ケアでヒヤリ・ハットが起きたが、利用者に明らかな健康被害はなかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．利用者の状態を確認し、定められた方法で報告・記録して、原因と再発防止策をチームで検討する。
- イ．被害がなければ誰にも伝えない。
- ウ．個人の不注意だけを責めて手順は見直さない。
- エ．記録を残すと責任問題になるため口頭だけで済ませる。

答え・解説

正答：ア

- ア：ヒヤリ・ハットも再発防止に活用する安全情報である。
- イ：被害がなくても同種事故の予兆として共有する意義がある。
- ウ：個人要因だけでなく手順・環境・連携体制も検討する。
- エ：事実を記録し組織的に改善することが重要である。

総合解説：安全文化は異常や失敗を隠すのではなく、学習可能な情報として扱うことで強化される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0150

医療的ケア > 安全管理・感染予防・急変対応 | 難易度：応用

介護職による医療的ケアの安全性を高める取組として、最も適切なのはどれか。

- ア．利用者ごとの指示・手順、職種間の役割分担、研修、物品管理、緊急時対応、記録・振り返りを一体として整備する。
- イ．熟練職員だけに任せれば手順書は不要である。
- ウ．事故防止のため医療職との情報共有を最小限にする。
- エ．ケア実施の速さを最優先の評価指標にする。

答え・解説

正答：ア

- ア：安全は一つの技術だけでなく組織的な仕組みで支える。
- イ：経験に依存せず標準手順と個別指示を確認できる体制が必要である。
- ウ：多職種との情報共有は安全性を高める。
- エ：速さより正確さと状態観察を優先する。

総合解説：医療的ケアは『できる技術』だけでなく、実施条件・連携・異常時対応を含めて安全管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04